



2012 REPORT

横浜アートサイト2012実施レポート



YOKOHAMA ARTSITE 2012 イラストMAP

横浜アートサイトは、横浜が魅力的なまちになることを目指し、それぞれの地域でコミュニティの活性化や地域資源の活用に取り組みむアートプロジェクトの発展と成長をサポートする場です。参加するアートプロジェクトは公募により決定し、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団と横浜市文化観光局が連携して活動支援を行なっています。

2012年はこれまで開催のなかった区へもネットワークが広がり、17のアートプロジェクトが参加。横浜の多様な地域・大きささまざまなコミュニティにおいて、アートを通じて人と人、人と地域のゆるやかなつながりを創出し、人と地域の多様性や様々な共生関係を育みました。また、プロジェクトにおけるイベントには、数にしてのべ約9万5800名の方にご来場いただきました。

また、事務局ではツイッター、フェイスブック等のSNSを活用したウェブサイトのリニューアル、ロゴビジュアル

アルの刷新、そして昨年度参加団体間で企画されたプロジェクト訪問レポート「アートサイト便り」を発展させた「横浜アートサイトニュースレター」の発刊など、参加アートプロジェクトの魅力を様々な形で発信する取り組みを重ねました。

この実施レポートが、参加するそれぞれのプロジェクトの魅力を知る一助となり、アートと地域の関わりについて、また自立するプロジェクト同士のネットワークの可能性について考察する手がかりとなれば幸いです。最後になりましたが、横浜アートサイトの趣旨をご理解いただき、ご協力賜りました関係者の皆様に対し深く感謝申し上げます。

横浜アートサイト事務局

01 ごあいさつ

02 公募概要・結果

04 横浜アートサイト2012のあゆみ

05 横浜アートサイト2012 報告会

横浜アートサイト2012参加団体活動報告

08 第14回金沢文庫芸術祭

09 都筑アートプロジェクト ニュータウンARTトリップ線路の下から旅に出るー

10 長者町アート☆プラネタリウム

11 動物園劇場

12 創造と森の声2012『森ラボ』(Laboratory of the Forest)

13 大岡川アートプロジェクト「光のぶらむなあと2012」

14 A O B A + A R T 2 0 1 2

15 あざみ野でつながろう∞ともだち開発計画ーアートで遊んで出会っちゃおうー

16 ほっとたつはな亭

17 ともだちの丘えんげきまつり

18 さかえdeつながるアート2012

19 2012 キャンドルナイト・アートフェスティバル

20 カドベヤ・オープンDAYーつどおつかたろうーことを起こそう

21 第3回寿灯祭

22 ホームステイーアフリカからのお客さんプロジェクトー2012

23 ワダヨコ

24 こどもの創造性をアートでつなぐーコミュニティ・ミュージックセラービー(CoMT)の
新たな可能性をめぐる

25 横浜アートサイト2012の広報

27 around YOKOHAMA ARTSITE(横浜アートサイト2012ニュースレターより)

33 D A T A .. 参加団体プロジェクト詳細

横浜アートサイト2012では、
「横浜で地域と共に活動するアートプロジェクト」を公募し、
選考により17団体に助成および活動のサポートを行った。

横浜アートサイト2012公募概要

実施時期

2012年7月1日(日)～12月31日(月)

対象となるアートプロジェクト

美術、映像、音楽、舞台芸術などアートにかかわるものであればジャンルは問わない。

①フェスティバル部門

- ・開催地域外からも含めた集客を見込めるフェスティバル性を有するもの
- ・地域の歴史や自然、景観などを活用し、アートを通じてその魅力を引き出し、地域に寄与するもの

②コミュニティ部門

- ・福祉・環境・街づくり等に取り組む地域やコミュニティの活動において、アートを通じて課題解決や活性化を目指すもの
- ・アートに触れる機会を広げ、参加者間におけるコミュニケーションの醸成や感性を育むことを目的としたもの

助成内容

①フェスティバル部門 1件につき上限50万円

②コミュニティ部門 1件につき上限25万円

スタートアップ支援(アートサイト未開催区における新規企画)

【対象区】磯子区・神奈川区・港南区・瀬谷区・鶴見区・戸塚区・西区

①・②の部門を問わず、上記区での新規開催提案に対しては、別枠で審査。

応募期間

2012年1月28日(土)～3月30日(金)

選考方法

第1次選考(書類選考)、第2次選考(ヒアリング)

選考委員

大澤寅雄(株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)

村田真(美術ジャーナリスト)

森井健太郎(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ長)

選考結果

採択団体数 17団体(応募数39団体)

・フェスティバル部門 6団体

・コミュニティ部門 11団体

上記のうち、スタートアップ支援 2団体(動物園劇場実行委員会[西区]、NPO法人カフェ・テラ・テラ[戸塚区])

横浜アートサイト2012のあゆみ

横浜アートサイトでは、1年を通じて参加者間のネットワークや情報の交換・共有に取り組んだ。

2012年5月20日(日)13時〜16時
キックオフミーティング

事業説明と参加団体の顔合わせを行う。各団体代表者による活動紹介ののち、事務局より事業報告書、収支決算書の記入方法、広報制作物、スケジュールなどを説明した。

会場：ヨコハマ創造都市センター



6月

事前ヒアリング

参加団体と事務局が個別に面談し、プロジェクトの進捗や目標の共有を図るヒアリングを行った。

ウェブサイトをリニューアル。
フェイスブックページを新規作成。

ニュースレター01号発行

6月30日(土)11時〜12時30分
研修「アートプロジェクトの意義と今後の継続性について」

アートプロジェクトの意義や運営サイクルの考え方についてのケーススタディを行う。プロジェクトの持続可能性について考察するための評価材料、エピソードの蓄積についても話題となった。

講師：帆足亜紀（公財）横浜市芸術文化振興財団
横浜トリエンナーレグループ長
会場：のげシャール



同日 12時30分〜14時30分
交流会

研修後に交流会を実施。横浜アートサイトに参加するアーティストのパフォーマンスが行われたほか、参加団体による連携企画「アートサイト便り」の制作チームも発足した。ケータリングには主に横浜の食材を調理したメニューが用意された。

パフォーマンス：太田ゆかりと今井尋也
YOKOHAMA DANCEMUSIC「メンテナンス」
ダンスと小鼓スベシヤル」
フードデザイナー：小松由和（Cafe&Dining SAKAE）
会場：のげシャール



7月〜12月

「横浜アートサイト2012」開催

各参加団体が独自の活動を展開。その一方で、合同キックオフパーティーの開催や広報連携、アーティストの交流など、横浜アートサイトのネットワークを生かした活動が自発的に展開された。必要に応じて助言や所管公官庁との調整などを行った。

9月
ニュースレター02号発行



11月
ニュースレター03号発行

ニュースレターエクストライシュー
発行

12月〜2月

事後ヒアリング

プロジェクトの取り組みについて、各参加団体と事務局が、事前ヒアリング時・実施期間中に共有した内容や目標達成、今後の課題などについて検証・フィードバックを行った。

2013年1月
ニュースレター04号発行



2月8日(金)18時30分〜21時30分
横浜アートサイト2012報告会

「地域とアートをめぐる17の「生態系」〜多様性、共生関係、持続可能性〜」
参加団体の活動報告を一般に公開して行う報告会を実施。デイスカッションでは、アートプロジェクトと地域・コミュニティとの関わりやその可能性について、意見交換を行った。

ゲスト・コメンテーター：大澤寅雄（株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室准主任研究員）
フードデザイナー：FOOD LANDSCAPE
会場：ヨコハマ創造都市センター



横浜アートサイト2012報告会 デイスカッション「地域とアートをめぐる17の「生態系」

〜多様性、共生関係、持続可能性〜

年度の総括として、横浜アートサイト2012参加団体による活動報告とデイスカッションを行った。デイスカッションでは、株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室の大澤寅雄氏がゲスト・コメンテーターを務めた。



大澤…テーブルが3つに分かれていますが、ひとつはフェスティバル部門として採択された団体のテーブル、もうひとつはコミュニティ部門、そして最後はコミュニティ部門の中でも福祉や医療に関わりのある団体ということで分けさせていただいております。まずはフェスティバル部門のテーブルでアートプロジェクトの持続可能性という観点から伺いたいと思います。

金沢文庫芸術祭 井上…同じ人が続けていく訳ではないんですね。子どもも成長していきますし、人の出入

りもある。同じプロジェクトを続けている中でも、運営する人が変動していくという形で続けられるのではないかと。最近では若い人達が成長して、ちよつとずつ運営の部分を担当できるようになってきたかなと思います。ただ作業分担が難しく、それはこれからの課題だと思います。

大澤…大岡川アートプロジェクトの中村さんは、今年アーティストに専念するといわれました。事務局を担える人が他に育っているということでしょうか。

大岡川アートプロジェクト 杉山…今年5年目ですが、地域の方々が参加から参画に変わってきました。地域の子ども会を中心とした参画の形ができつつある。それが継続につながるのではと考えています。

大岡川アートプロジェクト 中村…僕は地域の中では常に第三者として意見を表す立場の人間だと思います。

そういう役割の人が必要だと。大岡川は継続して関わりますが、他に広がりを持つことにも興味がありますね。

大澤…多様性という観点で見ると、異質な人やモノが入ること街の雰囲気に変化するということはあると思います。都筑アートプロジェクトでは予想しなかった出来事が起きましたね。

都筑アートプロジェクト 今井…突然知らない人のカップの作品が会場に飾ってあったんです。人の髪の毛で大きなキノコを作った作家がいて、それを見て「俺も出しちゃおう」と思ったみたいで。そのキノコの作品はもう事件みたいになっちゃっているんです。準備中で僕らが何の案内もしていない段階で高架下に髪の毛のキノコが制作されてきたので、周囲の人はすごくびっくりしたと言っていました。

大澤…予測できない出来事が起こること、予測しない意見や声が聞けたのではないのでしょうか。長者町でもそうしたことありましたか？

長者町アート☆プラネタリウム 竹本…良いことのほうが多かったです。街の性質上、人を呼んでいい場所か分からなかつたんです。結果的には昔から住んでいる町内の結びつきの強い人達がいる、安心できる街なんだということが分かりました。地域の不動産屋さんにも協力いただいたり、生花店から作品材料としてバラを提供していただいたりしました。長者町に

は普段、子どもが来たりすることがあまりないようで、地元の方もほのぼのしてくださったようです。

大澤…動物園劇場は市民団体の文化的取り組みを動物園で集積して見せるという取り組みですね。場所柄のユークスが際立っていると思います。

動物園劇場 五十嵐…僕らはアートサイトの公募締切の直前に企画を立ち上げました。この事業があったおかげで地元の方とのつながりができたり、近隣施設から協力を仰ぐことができたなど、企画から始まって、様々な団体との共生関係が生まれました。地元の方がつながっていったというのが良かったのかなと。今回は実行委員会を中心となって運営を進めましたが、この先は今回関わった団体の自発的な意識が伸びてくるのが持続可能性のために大事だなと感じています。

大澤…創造と森の声では、他団体とも積極的に関わってらっしゃいますね。うまく共生されているように思います。

創造と森の声 石山…アートサイトでは「同じようなことをやっている人達に出会えるのが嬉しい。これが新しい地域を作っていく、だからやっぱり協力していくと。地域ということ自体が難しい言葉で、それが持続可能性ということと同じかちょっと分からないんですが、5年というサイクルで何かを変えていかないといけないとい

うタイムリングが来ます。今年度はちょうどその節目で、予算も人数も大きく変ええました。あと5年は続けていけそうだなと。

大澤…共生と持続可能性ということは近いテーマになってきているなと思います。支えあう、協力しあうということが持続に必要だと。そういう空気がアートサイトの5年の活動で生まれて来ている事が僕は嬉しいなと感じます。コミュニティ部門のテーマに移りたいと思います。スペースナナで行われていた被災地とつながるプロジェクトを伺いたのですが。

大澤…震災というテーマは、カフェテラ・テラでの取り組みにも共通しますね。

カフェテラ・テラ 成田…私どもの団体は、ライフスタイルを問い直すという事がテーマなんです。成長路線ばかりの社会のあり方で本当に成り立つのだからかと。そうすると3・11は活動そのものの中で位置づけていか

大澤…和田さんは本当にアーティストですね。ともだちの丘えんげきぶではいかがですか？

ともだちの丘えんげきぶ 今井…ワークショップにはいろいろな方が来ます。演劇の特質として、舞台の上には垣根がないんです。そうした場所を求めて皆が来る。10年活動を続けて来て、僕は偏見というのを全く考えなくなっています。僕らが行くと皆、安心してくれる。楽しみを与えようとか、アーティストとしての自我を満たそうとか、そういうモチベーションでやっていることと続かなくなるんですよ。

大澤…和田さんと今井さんはアーティストとしての立場でいらつしやいます。コーディネートとしての立場として寿町で活動する2団体にもお伺いしてみたいと思います。

寿オルタナティブ・ネットワーク 橋本…こちらは寿灯祭だけではなく、様々なアートのプログラムをやっています。全体に関わっている立場から見ると、場に集まる人は人間を見る能力に長けている人が多い様に思います。ですから、コーディネーターとしてファシリテートするようなことはあえてしないで、そこに居る人の主体性を大事にするように考えています。

寿オルタナティブ・ネットワーク 友川…いろいろな偏見のあり方があると思うんですけど、でもそれでいいんじゃない

なくてはいけない。戸塚も揺れました。我々も被災地です。当時の記憶を忘れてしまいがちですが、同じ被災地として、同じ地域づくり、まちづくりとして無視できないという気持ちがあります。

大澤…多様性の話を聞いてみたいと思ったのがアフリカからのお客さんプロジェクトです。考えてみれば私達は普段アフリカ人と出会わない。そうしたことを改めて考えさせられました。多様性という部分で何かエピソードはありますか？

アフリカからのお客さんプロジェクト 黒木…国は違えど同じ時代を生きているという所の方が浮き上がって来たと感じます。昨年は、民族語を話せないナイジェリア人のアーティスト（タイ・エ・イダハル）が来ました。日本でも同じ様に、お茶の文化を継承していなくなったり、方言を話せなくなったりというようなことが起きています。そうした若者同士の共感や、一緒に生活をしている中で出てくるちよつとした違和感や摩擦みたいなことが、浮かび上がってきました。

大澤…さかえdeつながるアートは参加者の世代が広いことが特徴ですね。

さかえdeつながるアート 岩上…参加者は3才から高齢の方までいます。若い世代が少なかったことから、今年度は中学生と「ポラランドポスター

か。偏見がぱつと解ける瞬間が気持ちいいんであって、それが寿町でプロジェクトをやっていることの大きな楽しみのひとつかなと思います。

居場所「カドベヤで過ごす火曜日」 横山…寿町を出た所に大学の教育授業の環として拠点を構えています。正直言いまして、学生達にはあまりシヨックというのはいないんです。シヨックを受けるような学生は寿町には来ない。同じような気質の人間同士が集まってしまふというのはどうにも不自然で、それをどうにかして崩したいとは思っています。あの場所（寿町）にいればいほど、人間はいろいろで、和田さんや今井さんがおっしゃることに100%同調します。大学自体は街から偏見をもつて見られているのですが、若い人がそういうシーンに飛び込んでいくことは絶対に必要だと感じています。

大澤…偏見というテーマについて、よこはま音楽広場での取り組みではいかがでしょうか。

よこはま音楽広場 高田…偏見というキーワードは共有できる話題です。肢体不自由児施設を活動場所にしているのですが、参加している子どもに、「私、肢体不自由児という言葉がいやなんだ、私は不自由なの？」と聞いかけられたんですね。次年度継続したら、肢体不自由児という言葉を自分たちの好きな言葉で考えてみようということをやりたいと思っています。

展」を見に行くという活動をしました。見に行くだけではなく、デザイナーさんをお願いして一緒にポスターを作るワークショップを行っています。デザイナーさんに伺ったところ、現在の職業を選ばなかったのは中学生の頃の出来事だったそう。ですから、中学生達にそういう場を提供できたのは良かったかと。

大澤…それはいい出会いでした。活動団体にも、参加者にも、それぞれに広がりがあるように思います。ワダヨコには共生関係を伺いたと思っています。

ワダヨコ 曲…地域にコミュニティはあのですが、横浜国立大学の学生は和町を通るのに、通り過ぎるだけで街とのコミュニティが存在しない。そうした問題意識からワダヨコが始まったのですが、地域とのつながり以上に、ワダヨコの拠点を通じて様々なつながりができるのが面白い所だと思います。以前通っていた子どもが、イベントに来てくれたり、過去のイベントに参加してくれた方が顔を出してくれたりしてくれるのが嬉しいです。

大澤…AOBA+ART 海老澤…映像のワークシヨップを企画しました。シニア世代には抵抗はあるだろうと想定していたので、当初は参加者ではなく

報告会を終えて

大澤 寅雄（株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室）

報告会には約110名の方が会場にお越しくださいました。関心を持ってくださる方が増えたのは嬉しいことです。アートサイトの「サイト」は日本語でいうと風土ということだと思います。生態系という言葉は、そこからイメージして使っています。各団体の活動は風土に根ざしつつも変化していくというように、そういう仕掛けであつてほしいと。

僕は予想外のことが起きるといことが豊かだと考えています。企画書に書いてあるとおりのことが起きるだけでなく、企画書の目的に沿って進めた上ではみ出たこと、予想外のことが起きたということが重要だと思います。アートサイトには、優れた展覧会や優れたプロジェクトだから支援するということだけではなく、その場所であり、その人であることの可能性に支援するというのが基本ベースがあるんです。5年間継続してきて、各プロジェクトを巻き来るアーティストが生まれています。ただ、同じアーティストが方々で活躍することで、各プロジェクトが同質化して見られるという面も出てくるかもしれません。アーティストの表現活動の中に各地域・各アートプロジェクトの風土がにじみ出るといいですね。アートサイトは確実にそうした状況が起こりやすいシーンを創出していると思います。

ファシリテーターとして子ども達に教える立場になつてもらおうと思つていたんですが、事前説明会に伺つたときに面白がつてくれて、「私達がやる」と寛容な言葉をいただきました。もしかししたら、こちら側に偏見があつたのかもしれない。

大澤…ありがとうございます。こちらのグループは世代間や国際間にいろいろな広がりがあるなということが印象的でした。次のテーマに移ります。福祉的なことをやっている領域とアートというところでグループ分けを考えていたのですが、ほつとたつはな亭の活動報告の中で和田さんがおっしゃっていた「偏見をありがとう」という心に突き刺さる言葉がありました。偏見というもので隔てられるものをどう越えるか。それがテーマになるところで、「偏見をありがとう」と言ってくださつた。その率直さを私は嬉しいと感じました。

ほつとたつはな亭 和田…素晴らしいコメントだと思います。もう「愛」だよつて。



主な団体間連携

都筑アートプロジェクト×長者町アート☆フラネタリウム×スペースナナ
合同キックオフパーティー（7月29日）
参加作家のつながりによって実現。ワークシヨップや横浜アートサイト参加各団体の自己紹介などを実施した。都筑区の町内会や商店、地域住民などの参加もあり、多くの出会いとゆるやかな連係が生まれた。（都筑アートプロジェクト 岡）

動物園劇場×金沢文庫芸術祭
《ヒースフラッグ》の展示（9月29日）
金沢文庫芸術祭で作成したヒースフラッグを動物園劇場にて展示。金沢文庫芸術祭実行委員会がふりーふらつと野毛山の登録団体であったことから実現。（動物園劇場実行委員会 五十嵐）

さかえdeつながるアート×大岡川アートプロジェクト
横浜市立日枝小学校 総合学習授業「草木染めワークシヨップ」（12月11日）
小学校から相談を受けた大岡川アートプロジェクトのスタッフの仲介で「工房・野楽ネットワーク」がワークシヨップを行った。業区外での活動につながった。（さかえdeつながるアート 岩上）

居場所「カドベヤで過ごす火曜日」×寿オルタナティブ・ネットワーク
ワークシヨップ「ワンカップでキャンドル作り」（10月30日）
寿灯祭ワークシヨップ「ワンカップでキャンドル作り」をカドベヤで実施した。ほかにもアーティストの紹介をしていたくなどしている。共に寿町を活動場所とする団体間の連携が生まれた。（居場所「カドベヤで過ごす火曜日」 横山）



してかすおともだち(びじゅつをめてよう。してかすさんと行く! ツツキ★してかす列車)と山下若菜(てるてるつんとでる)



カラフルな手作り衣装でサンセット・パレードへ

都筑区 | フェスティバル部門

会期: 10月7日(日)~10月28日(日)、11月4日(日)
 会場: 港北ニュータウン、横浜市営地下鉄「センター北」駅構内、グリーンライン高架下
 大塚・蔵勝土遺跡公園(大塚遺跡)
 来場者数: 約5万8300人(通行中の観覧者を含む。WS、イベント参加者数は970人)
 参加アーティスト
 阿部剛士、今井紀彰、岡典明、柏木かおり、金井聡和、
 してかすおともだち、嶋田勇介、須永健太郎、タムラクミ、
 土志田ミツオ、永岡大輔、松本力、山下若葉、山本麻世、VOQ(本多裕史)



都筑アートプロジェクト

都筑アートプロジェクト
 ニュータウンARTトリップ-線路の下から旅に出る-



タムラクミ《諸行無常の光あり》

今後、参加アーティストの拠点となる作業場の確保が必要です。地域協力で収集された材料の保管や海外アーティストの招聘、展示作品の事前安全チェック、学校やグループ単位のワークショップ作品の制作などが可能となり、地域交流や新たな展示への展開が期待されます。
 (実行委員長 岡典明)



岡典明《Happy Talk Picnic》でくつろぐ来場者

金沢区 | フェスティバル部門

会期: 9月16日(日)~11月15日(木)
 会場: 海の公園、アサバ・アートスクエア、カフェおぼふ、他
 来場者数: 約1万7000人
 参加アーティスト
 ロコサトシ、寿[kotobuki]、
 玉田多紀、矢澤珠美、カプリオル、
 村山二朗、宮下昌也、他



金沢文庫芸術祭実行委員会

第14回金沢文庫芸術祭

「参加したい」その意志だけで集まった子どもから大人まで、約40人が完全ボランティアで活動しています。それぞれに仕事や家庭があり、時間をやりくりしながらですが、月に1度のミーティングには常時20人は集まって、手作りの料理を囲み、どんなことをやりたいか、どうやったらうまくいくかを話し合います。この場で得られる宝物は、さまざまな人とつながること。これをイベントの参加者や出展者にも広げて、人の輪が大きくなっていけばと思っています。

「参加したい」その意志だけで集まった子どもから大人まで、約40人が完全ボランティアで活動しています。それぞれに仕事や家庭があり、時間をやりくりしながらですが、月に1度のミーティングには常時20人は集まって、手作りの料理を囲み、どんなことをやりたいか、どうやったらうまくいくかを話し合います。この場で得られる宝物は、さまざまな人とつながること。これをイベントの参加者や出展者にも広げて、人の輪が大きくなっていけばと思っています。

(実行委員 井上えつこ)

主催団体プロフィール
 団体活動年数: 15年 / 横浜アートサイト
 参加年数: 5年 / 活動拠点: アサバ・アートスクエア
 「参加したい」その意志だけで集まった子どもから大人まで、約40人が完全ボランティアで活動しています。それぞれに仕事や家庭があり、時間をやりくりしながらですが、月に1度のミーティングには常時20人は集まって、手作りの料理を囲み、どんなことをやりたいか、どうやったらうまくいくかを話し合います。この場で得られる宝物は、さまざまな人とつながること。これをイベントの参加者や出展者にも広げて、人の輪が大きくなっていけばと思っています。



ロコサトシのライブペインティング



TN ballet バレエ

西区 | フェスティバル部門

会期: 9月29日(土)
会場: 野毛山動物園、野毛山公園、野毛山荘、横浜市青少年交流センター、Brillia SHORT SHORTS THEATER
来場者数: 約1600人
参加アーティスト
BEAT、TN ballet、笛ナンドス南田是和、大木 翔、air、東京アーティストグループ、Na Liko O Pikake、横浜市立大学ジャグリングサークルしゃかりきバンド、野毛太極会、マリリン、新真真カラテ西口木元道場、車いす紙芝居おじさん、野毛山荘オカリナの会、ブアカーネーションズ野毛山、アラメヤ音頭 楽踊会、他



動物園劇場実行委員会 動物園劇場



しろくまの家での今井紀彰ワークショップ

動物園劇場は、西区のみならず旧地区と野毛地区の、いわゆる新旧エリアの交流と世代間の交流の促進、および区内で活動する団体の創作活動の発表の場を作ることを目的として、野毛山動物園、野毛山公園、横浜市青少年交流センター、野毛山荘を主な舞台に開催。開催当日は音楽演奏、パフォーマンス、ワークショップ、展示、上映など25組が参加しました。

今回は区内に拠点のあるNPO等が主体となつて事業の企画・制作・運営を行いました。野毛地区の周辺で活動する市民団体の発表の機会を作る」という事業の目的からしても、既存の体制に加えて今回の実施場所の近傍に居住する新たな担い手が必要と考えます。

今後は、当初の目的を実現するためにも、より多くの方にイベントを知っていただくべく広報活動に力を入れる、イベント自体によりアートの要素を増やす、など工夫して「動物園劇場」をより充実したものにしていきます。

(実行委員長 五十嵐洋志)



徳山ひかり 朗読劇



嶋田勇介 ダンス(インスタレーション 吉井千裕×川村真紀×タムラタクミ)

中区 | フェスティバル部門

会期: 11月10日(土)~11月25日(日)
会場: 長者町アートプラネットChapter2、長者町7・8・9丁目
来場者数: 約200人(屋外展示を除く)
参加アーティスト
上島益雄、川村真紀、北川純、嶋田勇介、杉山孝貴、竹本真紀、タムラタクミ、吉井千裕



長者町☆アートプラネタリウム実行委員会 長者町アート☆プラネタリウム



北川純(エロース・ビルの谷間)

夜の街のイメージが強い長者町7・8・9丁目。町内会に入会しているビルやお店を、参加アーティストや地域住民、一般の方と、プレイベントとしてワークショップ形式でまちあるきしました。

毎月の町内会役員会に参加し、イベントの内容や協力してほしいことをお話ししてきました。制作は参加アーティストにプランを提出してもらい、調整を図つた後、アーティストと設置場所担当者との直接やりとりで進めました。

開催期間中は、まちでの屋外展示やアーティストによるまちあるきワークショップのほか、屋内でも展示・イベントを行いました。お客さんは、普段さつさと通り過ぎがちなこの地域で、よく街を見るきっかけになり、新しい発見があったとおっしゃっている方が多かったです。町内の方々の反応もよく、周辺の方々と顔が見えるお付き合いになりました。親子連れがアート作品を指差してはしゃぐ場面も見られ、微笑ましかつたとの声をいただきました。

(代表・美術家 竹本真紀)



竹本真紀(ちょうふくちゃんを探せ)

主催団体プロフィール
団体活動年数: 1年 / 横浜アートサイト参加年数: 1年目 / 活動拠点: 長者町アートプラネット

長者町7・8・9丁目町内会長 田代信太郎、長者町アートプラネット Chapter2 運営委員会 竹本真紀、嶋田勇介、参加アーティスト、サポーターで結成された組織。地域のイメージの健全化をはかるための起爆剤として、町内を利用したアートイベント「長者町アート☆プラネタリウム」を開催するための委員会です。

今回は地元企業のご協力を得ることもでき、町内とともに開催したイベントとなりました。今後の課題は資金集めと、スタッフ集めです。



蒔田公園に《光の迷路》をキャンドルで描いた

南区 | フェスティバル部門

会期: 12月15日(土)~16日(日)
 会場: 蒔田公園親水広場「ふれあいアクアパーク」、大岡川流域、
 フォーラム南太田、吉野町市民プラザ 他
 来場者数: 約4800人
 参加アーティスト
 空間演出デザイン: 中村敬 デザイン: ふじたおさむ 出演: ビッグバンドNAZCA、
 ジェリクルーY、和太鼓 撥當 市民参加: 共進中学校、蒔田中学校、
 大岡小学校、匠、ほか町内会子ども会、文化団体多数



大岡川アートプロジェクト実行委員会

大岡川アートプロジェクト 「光のぷろむなあど2012」



中村敬による高架橋ライトアップの前での《水辺の光コンサート》

5 回目となり、大岡川の冬の風物詩のひとつに数えられるようになりました。年々、市民の参加企画が増え、近隣の学校参加も盛んになり、市民参加型の手作りの灯かりがこのイベントの顔にもなっています。

伊沢和紙行燈を使った大岡川沿いの光の回廊、首都高速高架橋のライトアップ、大岡川でのカヌーによるパフォーマンスなど、アートイベントとしての質も高まっています。

今回から吉野町・蒔田、南太田付近を「光のぷろむなあど地区」と名付け、他地域との交流を含め、横浜観光の一拠点として発展していくことを願っています。

(空間演出デザイン 中村敬)



大岡小学校6年生の切り絵による行灯



石黒和夫《まわる、ゆれる》

緑区 | フェスティバル部門

会期: 7月21日(日) ~ 11月18日(日)
 会場: 横浜動物の森公園予定地、JR横浜線・横浜市営地下鉄中山駅周辺
 来場者数: 約1万800人
 参加アーティスト
 美術展参加作家: 石黒和夫、吉川陽一郎、天野浩子、相原慶樹、近田明奈、荒木美由、
 金井聡和、片村信、木賀陽子、山本麻世
 ワークショップ講師: 原口和夫、沢田清美、吉川陽一郎、蓬田直美、石黒和夫
 ミュージシャン: Marginal Comedy、プリコロハウス、中山ギターアンサンブル、モントリオ



GROUP創造と森の声

創造と森の声2012『森ラボ』 (Laboratory of the Forest)



森のコンサート(プリコロハウス)

今年度は春、夏、秋にイベントを分散させ、事前の打合せや準備がともにもスムーズに行われ、活動と交流の場がゆつたり持てたと思っています。企画から準備、実施まで3グループに分けたことも良い結果を生みました。

森をフィールドにした活動ですから、春は森の観察や手入れから始まるのは当然です。地域の方々ともに行った森づくり体験は初めての試みでしたが好評でした。

夏の森ワークショップは1週から2週間隔で各担当者が余裕を持って実施できたことは、スタッフ個々の自信につながり大きな成果になったと思います。

美術展は初めて国内作家の長期制作になりました。森での経験が長い作家は実験的作品に取り組み、森の場を生かした作品を見せてくれました。また若い作家は自分の作風と森との格闘でした。それもまた見応えのあるものになったと思います。これからは地域の人たちに親しまれたいとも思っています。

(事務局代表 石山克幸)



《森の織物2012》

主催団体プロフィール
 団体活動年数: 16年 / 横浜アートサイト参加年数: 5年 / 活動拠点: 横浜動物の森公園予定地、JR横浜線・市営地下鉄中山駅周辺

横浜動物の森公園予定地、ならびに周辺地域で開催される創造と森の声のアートイベントの企画運営にあたり、多くの市民の協力とともに、広がりのある活動として成功させることを目的に結成されました。事務局代表、チーム代表、会計、会計監査含め20名ほどのメンバーで毎月1回から2回森で作業、月1回の会議を年間を通し続けながら、森の保全とアートイベントを関連させつつ活動しています。



今井紀彰ワークショップ「なんでもスイッチをつくろう」

青葉区 | コミュニティ部門



スペースナナ

会期: 7月11日(水)～9月2日(日)

会場: スペースナナ

来場者数: 約340人

参加アーティスト

今井紀彰、中津川浩章、下中菜穂、首藤幹夫

「あざみ野でつながろう∞ともだち開発計画」 ～アートで遊んで出会っちゃおう～



下中菜穂ワークショップ
「江戸の紋切りあそびでハガキを作ろう!」

ワークショップを楽しみながら、いろいろな人と出会い、つながりたいと考える企画しました。被災地から移住した家族ともつながりたいと思ひ、近隣の8つの小学校のご協力を得てチラシを配布してもらうことができました。福島から短期保養に来た子どもたちとは残念ながら日程が合わず、今回は参加してもらえませんが、この地域にもつながろうとするものがある、というメッセージは届けられたと思います。

4つのワークショップはバラエティーに富み好評でした。定員20人にしたことで、できあがった作品を飾り、参加者同士で感想を分かち合うことができ、参加者の夢中に取り組む姿を見て、私たちも楽しむ事ができました。被災地でアートを通じて交流を続けるアーティストの話聞いて、アートの力も感じました。

地域の大学生に協力を呼びかけて地域の活動として展開したかったのですが、今回はそれが十分にできず、そのことが今後の課題です。

(アートディレクター 中畝常雄)



首藤幹夫ワークショップ「幻燈機がやってくる!」

ワークショップ「主催団体プロフィール」
団体活動年数: 3年 / 横浜アートサイト
参加年数: 1年 / 活動拠点: スペースナナ

スペースナナは2010年暮れにオープンしました。世代を超えて出会い、つながり、元気になれる場所をつくりたいと、同年12月横浜市空き店舗活用事業の助成を受け、地域で活動してきた仲間たちで設立したコミュニティカフェです。ギャラリースタジオオフアートルードショップがあります。障がいのある方々の自己表現をサポートする場として、自主企画のアート展を継続して行う一方、定期的に原発についての勉強会や被災地支援のイベント等、独自のプログラムを続けてきました。

持続的な運営をめざし、2013年1月NPO法人格を取得しました。これからも地域への情報発信とともに、人々がつどい、ゆるやかに支えあう場になれるよう活動していきたいと考えています。



トーチカワークショップ「AOBA+ART DAY」

青葉区 | コミュニティ部門



AOBA+ART2012実行委員会

AOBA+ART2012

会期: 7月～12月

会場: 美しが丘公園、美しが丘中部自治会館、他

来場者数: 約400人

参加アーティスト

トーチカ、holiday

主催団体プロフィール
団体活動年数: 5年 / 横浜アートサイト
参加年数: 5年 / 活動拠点: 青葉区美しが丘2-3丁目の住宅街および近隣小学校、商店街、自治会館

AOBA+ARTはこれまで展覧会やイベントの開催など、さまざまな活動を行ってきました。5年目の開催となる今年度は、発足以来の課題の一つでもあった地域のシテ世代との関係づくりを中心に取り組みました。当団体の実施エリアである美しが丘は高齢化が進んでおり、今年度はその課題に集中的に取り組みべく地元の人々を対象としたワークショップを開催。コマ撮りアニメーションで知られるアートユニット「トーチカ」を招聘し、「街のコマ」を共に制作しました。

出来事によるイベントは会期が過ぎれば本質的には再現不可能なものです。が、映像作品を共に制作することで、個々の記憶だけでなく街のアーカイヴの一つとしても蓄積されることを狙いとしてきました。地域の高齢化が進むなか、今回の活動は、プロジェクトが街に息づいていくための新たな糸口となるのではないかと考えています。

その他にも会期中に実施した地域のイベントや地元企業との関わりにより、昨年度以上に街との関係性を深めることができました。次年度以降は、運営における課題である自立的な活動方法の検証と同時に、新たな切り口から地域におけるプロジェクトの役割を探っていく予定です。

(作家担当 海老澤彩)



「SUMERCUp'12」ワークショップ

AOBA+ARTは2008年に発足以降、青葉区美しが丘の住宅街にてアートやデザインによる美術展やイベントを開催している団体です。実行委員会はアーティストやアートやまちづくりにかかわる若手スタッフ、そして地域住民によつて編成されています。展覧会開催時には、地域の住宅の玄関先や庭先といったプライベートな場所が展示空間となるなど、地域との関係によって実現可能な独自の展示空間を特徴としています。

当団体は、継続的に地域に息づいていくような活動を目指しており、そのためにも二方向的な街への関与ではなく、我々自身が地元のイベントへ積極的に参加をしていくような双方向的な地域との関わりに重きをおいており、同時にそれが活動の原動力の一つになっています。今後も双方向的な出会いや対話が創出可能な、街に根付いていけるような活動を目指していきます。



毎週水曜に開催されるゼロボディワークショップの様子

港北区 | コミュニティ部門

会期: 12月14日(金) ※通年で毎週水曜日にオープンワークショップを実施
 会場: 大倉山記念館ホール(えんげきまつり)、ともだちの丘作業室(ワークショップ)
 来場者数: 138人
 参加アーティスト
 主演: ともだちの丘えんげきぶ ぶいん全員
 演劇ファシリテーター: 今井尋也、吉松章、小池けんちゃん
 ゲストアーティスト: 桜井真樹子、武中千恵
 スタッフ: きまたまき、大久保綾華



ともだちの丘えんげきぶ

ともだちの丘えんげきまつり

えんげきまつりは、10年前から行う
 健全者と障害者の演劇交流の生
 の姿を、市民の方ももちろん、お子さんや
 福祉・教育・芸術関係の方々にも幅広く観
 て頂くとうと2年前に始まりました。
 今回は「障害のあるなしに関わらず、
 カラダとオンガクとコトバを使ってあらゆ
 るボーダーライン(境界)を乗り越えて
 いく」をテーマに、ドレミファソラシドとい
 う7つの音を利用した音楽劇を創り、よ
 りフジカルで楽しい内容で、表現が自
 己と他者によって認められる時間と空
 間を創造しました。

えんげきぶの活動は、参加者全員が
 即興的に交じり合うワークショップを通
 して、社会と繋がる上で必要な自己表
 現能力とコミュニケーション能力を培うと
 同時に、障害のある方とともに演劇を
 体験することで「健全者」が自己と向
 き合う機会にもなっています。利用者達
 は活動を通して表現やコミュニケーション
 の楽しさを体験し、普段話すこともな
 かつた方が話をするようになり、笑うこ
 とのなかつた方が笑うようになり、みる
 みるうちに変化していきました。それによ
 つてボランティアスタッフも積極的に関
 わるようになり、外部とのコミュニケーシ
 ョンにも好影響を与え、地域活動の活性
 化へとつながりました。

今後は、より地域に密着し、地域の
 方々もどんどん参加できるようにしてい
 きたいと思っています。
 (ともだちの丘えんげきぶ部長 今井尋也)



「ともだちの丘えんげきまつり」舞台公演「そらみみソファ」



二俣川ハウスでの「ヴァイオリンとチェロのミニコンサート」

旭区 | コミュニティ部門

会期: 7月~12月
 会場: 精神障害者地域生活支援センターほっとぽっと別館、地域活動支援センター「木楽舎」、
 二俣川ハウス、鶴ヶ峰地域ケアプラザ、今宿西地域ケアプラザ
 来場者数: 645人(巡回展を除く)
 参加アーティスト: カニカピラ(太田義昭、荒川忠、遠藤義之)、佐藤葉子、宮地博美、
 米澤浩、熊沢栄利子、ひさきさとみ、小笠原伸子、中山育美、内田佳宏、
 ドリームカルテット(内田しおり、松井香奈子、西田剛、石田慎)、
 橋本奈津希、渡邊麻美、松井イチロー、植木啓示、横山貢介、広瀬愛、高橋真理、他



ほっとたつはな亭

NPO法人「共に歩む市民の会」
旭区地域生活支援拠点 ほっとぽっと

ほっとたつはな亭

コンサートは様々なジャンルを企画、
 ティータイムで出演者との交流も
 図りつつ、新会場での企画も行いました。
 ゆいまるでの気軽に立ち寄れる街角コ
 ンサートや、エリアの違う二俣川ハウスの
 取り組みでは、近隣の住人との新たな出
 会いもありました。

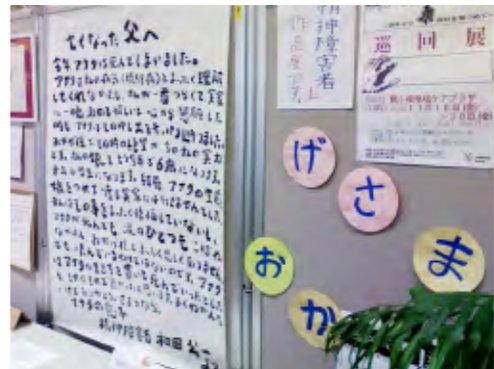
ギャラリーでは、障害の有無に関わら
 ず公募した「ひとりじゃないよ」と、精神
 障害のある方に焦点を当てた精神障害
 者の「おかげさまで」展を開催。当事者
 が社会の中で直面する支援も偏見も
 「おかげさまで」という言葉で表現し、様々
 な思いを発信できたと 생각합니다。今回は
 旭区関係機関だけでなく他区へも協力
 を求めました。地域ケアプラザの巡回展
 も地域拡大に繋がりました。

持ち寄り朗読会では、地域の方と当
 事者の出会いがあり、またコンサートと
 のコラボ企画も行いました。

今年は活動拠点だけでなく外部に出
 向いたことで、新たな出会いだけでなく、
 新しい企画や関係性も生まれ、充実し
 た活動となりました。
 (ほっとぽっとスタッフ 宮地博美)

主催団体プロフィール
 団体活動年数:「共に歩む市民の会」15
 年、「ほっとぽっと」8年/横浜アートサイ
 ト参加年数:3年/活動拠点:精神障
 害者地域生活支援センター ほっとぽっ
 と別館

「ほっとたつはな亭」は、精神障害をも
 つ人たちが安心して自分らしく暮らせ
 るような支援と地域づくりに取組んで



ギャラリー巡回展 精神障害者の「おかげさまで」展(鶴ヶ峰地域ケアプラザ)

いる「旭区地域生活支援拠点ほっとぽっ
 と」(NPO法人共に歩む市民の会)
 が運営での文化活動のことです。当事
 者と支援者と地域の方々とは、立場に
 よらず活動を行っていくことを大事にし
 ています。

主に、コンサートやギャラリーを中心
 に活動していますが、精神障害者が地域
 生活を行う中で、地域の方たちと同じ
 時間・空間を自然に共有できる場とし
 て、また、地域の方が精神障害について
 出会う・知る気付き場として、また、さ
 らには等身大の当事者からの活き活き
 とした発信により、地域をはじめとする
 関わっていく方々に理解を深める場とし
 て、存在し続けていきたいと願っていま
 す。年間を通しての活動を行っています
 が、ひとつひとつ終わるごとに、一同充実
 感を感じています。



トークライブ「大人だる、勇気出せよ」伊藤英樹×辻信一×善了寺住職

戸塚区 | コミュニティ部門

会期: 7月13日(金)~12月21日(金)

会場: 善了寺

来場者数: 約340人

参加アーティスト

トーク: 辻信一、安西順子、伊藤英樹

ミュージシャン: 松谷冬太、森田修史、和泉聡志、kaho



NPO法人 カフェ・デラ・テラ

2012キャンドルナイト・アートフェスティバル

主催団体プロフィール
 団体活動年数: 6年 / 横浜アートサイト
 参加年数: 1年 / 活動拠点: 善了寺

カフェ・デラ・テラは、明治学院大学学生・地域商店会・地元寺院が中心となつて活動する団体です。「二人ひとり」がアーティストをテーマに、誰もが表現者であること、生命を慈しみ悲しむ「慈悲」を中心としたコミュニケーションの促

今 回初参加の私たちは、東日本大震災を意識してキャンドルナイト・自主上映会トークイベントを行いました。すべてのイベントで、つながりを取り戻すことをテーマにしています。7月のトークイベントで東日本大震災の医療と介護の現場で活動された方の生の声を聴き、被災された方との絆を創るきっかけをいただきました。出産ドキュメントの上映会を通して生命の尊厳に気づかされ、12月のキャンドルナイトでは、実際に宮城県石巻に赴き、介護を通じて絆を結びキャンドルアートやトーク、コンサートとして表現しました。生老病死は決して分離しているものではありません。人間の尊厳を問う大切な生命の営みです。現地に行ったスタッフの学びが地域との絆を結び、参加者一人一人がキャンドルを並べて、被災地の平和、世界の平和を願う。そこには、次の活動へとつながる絆が生まれていました。今後は、多様性のある被災地との絆をむすび、多方面からの地域づくりを行いたいと思います。

(事務局 成田智信)



学生スタッフやミュージシャンによる石巻の介護サロン訪問を映像で報告



ゴドモアートキャラバン6 北川純「クリスマスプレゼント」

栄区 | コミュニティ部門

会期: 7月~12月

会場: 栄区内の地域ケアプラザ6館、栄区民文化センター リリス、

ともしびカフェ「ボエム'10」(あーすふらざ内)、他

来場者数: 約600人

参加アーティスト

松本光世、I☆deワークス(岡部昭子・谷口小絵子)、

工房・野楽ネットワーク(栗原俊子・表具基子/稲村幸江、

笹原紀子、高森早苗、田中英子、永田郁)、北川純、他



さかえdeつながるアート

さかえdeつながるアート2012

主催団体プロフィール
 団体活動年数: 5年 / 横浜アートサイト
 参加年数: 5年 / 活動拠点: 栄区内各所

「さかえdeつながるアート」は栄区内外で地域活動・アート関連活動を行う市民が集まり、2008年より、美術・音楽・ダンスなどと、栄のまち・ひと・自然

これまでの活動で培ったつながりや取り組みを活かしながら、これからもさらなる拡がり求め、新しい挑戦を続けていきたいと考えています。

(代表 岩上百合子)

栄 区民文化センターリリスの出張型ワークショップ「ゴドモアートキャラバン」(3~7歳の子どもと保護者対象)と共催する事業は2年目となり、今年度も多彩なワークショップを展開しました。その取り組みの中で、新しいユニット「I☆deワークス」が誕生。同センターの8月のイベント「リリスの大冒険」では新作ワークショップで会場を盛り上げました。「工房・野楽ネットワーク」は月1回の染色活動のほかに、今年度は地区センターや小学校からの依頼による草木染めワークショップを実施し、その技法を次世代に伝える取り組みで活躍しています。「アートdeカフェ」では、スタート時から関わりの深い美術家・北川純氏をゲストに「北川純とつながるアート」を開催しました。2012年の新企画として「五感を活かしたワークショップ」の研究や、中学生がプロのデザイナーにポスター制作の指導を受ける機会を作りました。



アートdeスクール「草木染め研究室」(工房・野楽ネットワーク)

をつなぐ活動を行ってきました。2012年は、アートdeキャラバンやアートdeスクールなど主たるプロジェクトと、独自の活動している関連プロジェクトが、ゆるやかなネットワークでつながる新しい形態で運営を開始。それぞれの協力者を得ながら、活動の輪が広がっています。

2011年に草木染めワークショップの参加者で結成した研究集団「工房・野楽ネットワーク」は、絞り染めの技法にアートの新味を加え、研究・創作活動を展開しています。また、2010年にスタートし、3回目を迎える商店街でのアートイベント「ショップ3」や、区内の8福祉事業所とアーティストが協力して新しい栄のギフトを誕生させた「さかえe.g.a.oプロジェクト」は、現在関連プロジェクトとしてさらに発展を続けています。

メンバーそれぞれが培ってきたフィールドとネットワークを活かして「地域とつながるアート」をテーマに活動しています。



寿町住民も自主的に参加した点灯作業

中区 | コミュニティ部門

会期: 12月16日(日)
 会場: 寿町総合労働福祉会館
 来場者数: 約300人
 参加アーティスト
 キャンドルプロデュース: nicori、グラフィック+空間デザイン: 阿部太一
 空間デザイン: 土屋匠生、映像プロジェクション: 「みんなうそつき」
 劇人形&弦楽器: Marginal Comedy Goes to Your Town!
 ジャンペ: 平魚泳、大藪勝彦



寿オルタナティブ・ネットワーク

第3回寿灯祭

主催団体プロフィール
 団体活動年数: 5年 / 横浜アートサイト参加年数: 3年 / 活動拠点: 中区寿町工ア
 プロボノ活動として展開し、まちづく

誰かが楽しめるキャンドルナイトを開催することで、団体の活動理解や受容につながっていると感じます。今後、様々な人との協同の場として続けていきたいと考えています。

私達の活動はアートを軸とするため、ドヤに住まう人達には活動内容がイメージしにくいようす。そうしたなか、

誰かが楽しめるキャンドルナイトを開催することで、団体の活動理解や受容につながっていると感じます。今後、様々な人との協同の場として続けていきたいと考えています。

私達の活動はアートを軸とするため、ドヤに住まう人達には活動内容がイメージしにくいようす。そうしたなか、

誰かが楽しめるキャンドルナイトを開催することで、団体の活動理解や受容につながっていると感じます。今後、様々な人との協同の場として続けていきたいと考えています。

寿 灯祭は日本三大ドヤ街として知られる寿町で2010年にスタートし、毎年開催されているキャンドルナイトです。寿町のドヤに住まう人、寿町で活動するアーティストが協同してつくりあげた灯りのおまつりとして、地域に定着してきました。今年も寿町と関わるクリエイターを更に生み出すべく、空間デザインや音楽・映像を、誰もが肩を並べて気軽に楽しめるフラットな空間を生み出しました。また、結婚式場で不要となったキャンドルと寿町内の酒屋から提供されたワンカップを組み合わせた「ワンカップキャンドル」を制作するワークショップを、キャンドルアーティストnicoriさんの指導のもと行ったことも新たな取り組みです。今後、寿町内の福祉作業所と協力するなどして製品化をすることができれば、ドヤの人々に就労機会の提供につながるのではと期待しています。



平魚泳+大藪勝彦によるライブ

りやアートプロジェクトを専門とするスタッフを中心に運営しています。寿町の街は年々、変化を遂げています。一方で今の寿町を知らない人の「怖い街」というイメージを拭くことの難しさを感じます。その誤解や偏見とも向きあひながら、ドヤ街で暮らす人々を対象に、生きる上で欠かせない人との関わり、喜び、新しい何かに気がつくことのできるような良い驚きを、アートを通じて提供すること、生き甲斐を創出する活動を行っています。生活保護の受給により、一定の生活が保障された人々の住まうドヤが必要とされる文化やアートは、翻って考えてみれば寿町以外に暮らす人にも必須なものと考えられます。この街を訪れた若手アーティストとドヤに住まう人とのコミュニケーションから生み出されるアートが、どんな人にも届く強度を持ったアートに転換していくプロセスを伴走していくことに、一番の面白さのある活動だと考えています。



ストレッチと夕めし「みんなてドラマ!」

中区 | コミュニティ部門

会期: 7月~12月
 会場: オルタナティブスペース「カドベヤ」
 来場者数: 278人(カドベヤまつりを除く)
 参加アーティスト
 花崎社季女、花崎三千花、黒沢美香&ダンサーズ、木檜朱美、nicori、稲田奈緒美、他



居場所「カドベヤで過ごす火曜日」

カドベヤ・オープンDAY 一つどおう・かたろう・ことを起こそう

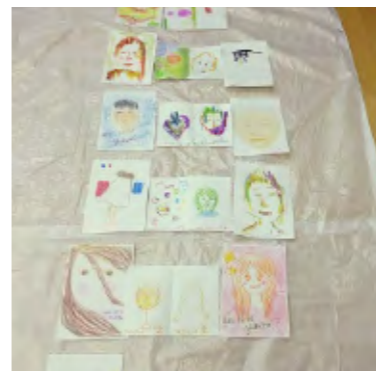
主催団体プロフィール
 団体活動年数: 2年 / 横浜アートサイト参加年数: 1年 / 活動拠点: オルタナティブスペース「カドベヤ」
 「カドベヤで過ごす火曜日」は2010年6月に始まった慶應義塾大学の社会連携事業「カドベヤ、動く教室」を土台にしています。目標は以下の4つ

(運営委員会代表 横山千晶)

・成果は、少しずつ固定の参加者が来てくださるようになったこと、さまざまなバックグラウンドを持った参加者が関わることで、他者理解の場所としてカドベヤの役割が明確化してきたこと、そしてその分、誰もが心地よい場所を作るためのファシリテートが必要となります。参加者同士での問題解決という「カドベヤで過ごす火曜日」の前提に沿って今後も活動を展開していきます。

・2013年度はアーティストだけではなく、参加者自身の持っている才能を生かしたイベントを、「誰もが主役」のテーマのもとに開催していく予定です。ご期待ください。

・「居場所」を見出し、期間中2回開催しました。成果は、少しずつ固定の参加者が来てくださるようになったこと、さまざまなバックグラウンドを持った参加者が関わることで、他者理解の場所としてカドベヤの役割が明確化してきたこと、そしてその分、誰もが心地よい場所を作るためのファシリテートが必要となります。参加者同士での問題解決という「カドベヤで過ごす火曜日」の前提に沿って今後も活動を展開していきます。



「背中を見て描いた他者の像」

・継続的な「居場所」を提供し、「空間」と「時間」を共有する。
 ・「想像」を「創造」へとつなげる。
 ・誰もが企画者となれ、その実現に参加者全員が協力する。
 ・その過程で町、社会の中での自分の「居場所」を見出し、
 大学生、石川町中区・南区界隈に住む人々、横浜で働く人々、NPO団体、アーティストなどさまざまな人々が平等に関わり、これらの目標を実行に移す場がカドベヤです。踊り、絵、歌、作詩、料理など、参加者それぞれの才能がカドベヤの中でも花開く瞬間を共有できることがこの場の醍醐味。2013年からは参加者自身がまわりのサポートを得て、毎週火曜日の19時から開催される「ストレッチと夕めし」の案内人を務めることで、「誰もが主役」になることが目標です。



夏休みの施工ワークショップ「椅子・棚づくり」の様子

保土ヶ谷区 | コミュニティ部門

会期: 7月~12月
 会場: office wit wada
 来場者数: 約35人
 参加アーティスト
 石巻2.0、studio402、横浜国立大学陶芸部・美術部・映画研究会、他



ワダヨコ

ワダヨコ



横浜国立大学陶芸部による「みんなて風鈴づくり」で制作された風鈴

学 生の発案・運営による月1度のイベントや活動拠点 wit 内の家具づくりのワークショップなどを行いました。イベントでは、地域の方を講師に招いた教室や、横浜国立大学美術部などの展示、同大学卒業生・在校生制作によるフィルム上映などを実施しました。また、施工では以前に施工した作り付けの棚を改良し、子どもたちと一緒に古くなった椅子の代わりに組み合わせ可能な木製スツールを作りました。子どもからお年寄りまで参加できるイベントを1年間コンスタントに続けられたことが良かったです。

学生が制作した風鈴が商店街の軒先に並ぶなど、私たちの活動は小さな変化を地域に生み出していると思います。イベントや施工、無料で子どもたちに勉強を教える寺子屋などの活動を通して、地域との交流活動拠点づくりを、これからも私たちが進めていきたいです。

(代表 曲萌夏)



横浜国立大学美術部による展示とワークショップ



アサダ×エメカの作品制作の様子

保土ヶ谷区 | コミュニティ部門

会期: 12月8日(土)~12月26日(水)
 会場: イシワタ邸
 来場者数: 約65人
 参加アーティスト
 Emeka Ogboh(エメカ・オグボウ)、アサダワタル、他



アフリカからのお客さんプロジェクト

ホームステイ~アフリカからのお客さんプロジェクト~2012



アサダワタルとエメカ・オグボウ

ア フリカと日本のアーティストが共同生活の中から作品を産み出す過程を公開し、ふつうの民家を「異文化交流の場」として少しだけひらいていく試み。2年目の今回は、日常生活を愉快に切り取る才能に長けた2人のアーティストを招聘しました。2人は街を歩いて音を探したり、台所でご飯を作ったり、音にふるまったりしながら、彼らならではの眼差しで横浜での日々を編集し表現に変えていきました。民衆住民の協力に加え、多様なボランティアスタッフが各々の持ち味を生かして思い思いの距離感でプロジェクトに関わってくれるなかで、初年度にはやや唐突感のあった「アフリカからのお客さんが民家に」という状況が、回を重ねて自然な風景になりつつあるのを感じています。これからは横浜のありふれた住宅街のなかに異質な空間を徐々に溶け込ませていけるよう、小さな規模で丁寧に出来事を積み重ねていくプロジェクトでありたいです。

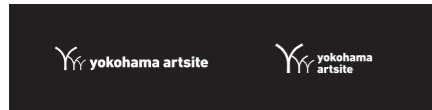
(代表 黒木皇)



「わたしたちは新聞ですか? Yes! we are newspapers.」
 エメカ・オグボウ×アサダワタル滞在制作成果発表の様子

主催団体プロフィール
 団体活動年数: 2年 / 横浜アートサイト参加年数: 2年 / 活動拠点: 保土ヶ谷区、横浜市内

私たちは、アフリカから客人を迎えられることのできるモノ・コトにゆつくりと向き合い、ささやかに楽しみ、そして自分たち自身の日常を振り返りながら暮らしています。2011年に行った第1回「ホームステイ〜アフリカからのお客さんプロジェクト〜」をきっかけに発足したゆるやかな集まりです。ホームステイを行うことで、生活空間での日々のお互いへの心の動きや小さな違和感を拾い上げ、予定調和に終わらぬ豊かな文化交流を生み出しています。



発行物のリニューアルに合わせて、ロゴマークを刷新。デザインは、参加団体と地域の多様性、アートプロジェクトを担う人の力、それらを育む土壌などをイメージして決定した。

ロゴマークのリニューアル

2012年度は、横浜アートサイトの認知向上、参加プロジェクトに関する情報発信の充実を目的に、発行物の大幅なリニューアルを行った。

横浜アートサイト2012の広報

〈ロゴマークに寄せて〉

地域でのアート活動を育てる土壌となる 港町としての歴史、みなとみらい地区、ヨットを模したホテルの外観や観覧車。横浜アートサイトに参加する各団体が、それぞれの地域で取り組むプログラムを訪れると、そんな通りいっぺんの横浜のイメージが刷新される。港のイメージとは対照的に、土の香りがたちのぼる大地の存在感が増してくるのだ。市民力でアートと地域を結びつけた多様な活動をする参加団体は、さながらそこに芽吹く樹々や草花のよう。思い思いの形や色で花を咲かせ、実る。そうした団体の活動を支援する横浜アートサイトは、豊かな土壌を持つ大地であることを目指す。
(横浜アートサイト2012ニュースレター1号より)

2011年度に開始したツイッターに加え、フェイスブックページの運用を開始。写真やイベントのシェアを通じて参加者間および一般の多くの方との間で活動状況を共有し、交流の活性化を図った。

SNSにおける展開

参加団体が行う活動が一望できるよう、トップページに各プロジェクトの画像を配置。それぞれの開催情報やレポートを掲載するページを新たに作成した。また、ニュースレターやSNSとも連動して情報更新を行った。

ウェブサイトのリニューアル



横浜アートサイト2012 WEBサイト artsite.yafjp.org

Facebookページ
www.facebook.com/yokohama.artsite

Twitterアカウント
@Y_Artsite



最終日に開催された「音遊びフェスティバル」での演奏

中区 | コミュニティ部門

会期: 7月12日(木)~9月27日(木)
会場: 神奈川県立子ども医療センター(肢体不自由児施設、待合ホール)
来場者数: 約100人
参加アーティスト
八巻真由美、関口杏菜、羽田喜子、高田由利子、藤井紀子、北林千佳、高橋亜紗子、田中瞳、根岸良太、百合野日登美、前川祥帆、望月那智、横田愛、金巻彩花、植木美奈子、老川智子、鈴木タケオ、羽田武志、柿崎守、飛岡秀子

子どもの創造性をアートでつなぐ コミュニティ・ミュージックセラピー(CoMT) の新たな可能性をめぐって

よこはま音楽広場実行委員会

音楽が新たなコミュニティを創る。テーマとし、子ども医療センター内の肢体不自由児施設の子ども達と音楽療法士が創る音楽の輪に、保護者、医療関係者、音楽家、ボランティアが徐々に参加し、自分たちのコミュニティを創造することを目的としたコミュニティ・ミュージックセラピー(地域にひらかれた音楽療法)を7回実施しました。

即興音楽や既成曲の演奏を通して参加者は自分のペースで音楽に関与し、最終日は外来患者も巻き込んだ参加型音遊びフェスティバルを開催しました。参加者からは「楽しかった」という声のほか、「自分らしい演奏ができた」、「表現への自信が繋がった」などの自己達成感、また、「仲間と協力できて嬉しかった」といった充実した相互関係が表出されました。

今回創出されたコミュニティは、参加者の心理・社会的欲求が充足される場でもあったと推察されます。音の命を息吹かせることで入院生活の意味が少しずつ変わるような体験を今後提供していきたいと思えます。(代表 高田由利子)

主催団体プロフィール
団体活動年数: 6年 横浜アートサイト
参加年数: 2年/活動拠点: 南区

よこはま音楽広場実行委員会は、音楽療法士が主体となり、音楽の持つ心理・社会的効果を目指した「地域にひらかれた音楽(コミュニティ・ミュージック)」を実施するため、2007年に発足しました。



「音遊びフェスティバル」にて「みんな集まれ! パラシュートを使った身体表現」

た。これまでに小学校での国際交流、障がいのあるお子さんや入院児童を対象としたコミュニティ・ミュージックセラピーを実施し、「主体的な自己表現」、「相互間によるコミュニケーションの促進」、「文化・社会的文脈における自分の居場所づくり」をテーマとし、安心して自分らしく表現をしながら仲間と関われる環境(コミュニティ)作りに取り組んでいます。

音楽体験を通して楽しむだけでなく、参加者が自分らしい音・音楽に触れる中で自己の可能性に気づくとき、仲間のアイデアを認め自分のアイデアも発信するとき、また、いろいろな感情を伴う個々の表現が統合されて美的な創出体験に繋がったときなど、音楽という非言語のもつ力を感じ、充足感が得られます。

横浜アートサイトの長期にわたる開催期間中の動きを隔月で伝えるとともに、どのような活動をしているのか、それがどのような成果を生み出しているのかといった、各団体の活動への理解を深めることを目的として発行。イベント開催情報や参加団体の概要、マップやインタビュアーなどの特集、参加団体有志の連携企画となる「アートサイト便り」、読者アンケート&プレゼントなど、発行時期にあわせた企画を展開した。

【概要】

全4号発行
発行時期…6月下旬、9月初旬、11月中旬、1月下旬
部数…毎号5000部
配布場所…横浜市内および首都圏などの文化施設・アート拠点、横浜市内行政施設



アートサイト便り(4号)

around YOKOHAMA ARTSITE

ニュースレター掲載の特集ページ。様々な立場の人の「声」から、横浜アートサイトで起こる出来事の意義や、今後の可能性を考えた。

互いの活動を感じて、知って、刺激にする。
さらに豊かなパワーが生まれるプラットフォーム。

6月下旬発行 1号

5年目のキック・オフミーティングを終えた頃、全17の参加団体から、2008年より継続して参加されてきた方、昨年初めて参加した方に、横浜アートサイトの「これまでとこれから」を伺いました。

「横浜アートサイトに参加している団体は本当に多様で、カラフルですよ。」

岩上…個性が大切ですよ。横浜アート



1号 表紙



2号 表紙



3号 表紙



4号 表紙

訪問&インタビュー記事 (around YOKOHAMA ARTSITE)

各号テーマを設け、参加団体スタッフやゲストのインタビューを通して、参加アートプロジェクトを紹介した。「横浜アートサイトのこれまでとこれから」、「親子とワークショップ」、「アートとまちづくり」、「福祉・医療とアートプロジェクト」などの4つのコンセプトで、各団体の活動の様子に加え、アートプロジェクトの多角的なレビューを試みた。



〈アートサイト便り〉

ニュースレター2号〜4号に掲載した「アートサイト便り」は、2011年度の連携企画としてスタートした企画が、ニュースレター内のコンテンツとして継承されたもの。参加団体のメンバーが、他の参加団体の活動やイベントを訪問してレポートする。2012年は10名のレポーターが、17のプロジェクトを訪問し、他のプロジェクトに対する理解、ノウハウの共有など、ゆるやかなネットワークを生み出した。



サイトが始まった頃(2008年)は集客力のある大きなイベントをやることに主眼があったように思います。ただこの数年は地域のつながりや福祉的な活動を大切にするようにならってきた。アートのつながり方って色々だと思っんですね。浅葉…変わってきましたよね。やはり当初は現代アートやプロのアーティストに意識が向いている感じがあったんです。



2012年6月1日、YCC Caféにて(左から)浅葉さん、岩上さん、黒木さん

うちはそういう部分は少ない。それでもあえて敷居を下げて、アートに出会う最初の一步をつくるような、浅く広くやる意識でやろうと思っていたんだけど、少し肩身が狭い思いもあった。今はそれが無くなりましたよね。

岩上…自分たちのカラーで、それなりやり方でやっていくことでいいんだとい

うことが共有されるようになってきたと思います。(光のふるむなあと)や(寿灯祭)もそうではないですか? その地域にあった手法というのがある。黒木…昨年からは参加して、これだけ色々な活動をされている方々が集まっているというのは魅力だと思いました。そのこと自体に価値がある。何かに偏ったり、活動の制限が増えてくると、参加しにくい団体も出てきたりして、それぞれの活動の良さや多様性が失われてしまいう。自由度を確保して頂いていることで、僕らは非常に居心地よく活動に取り組みました。浅葉…だんだんと、参加していることの楽しみが増している感じがありますよね。一昨年末までは多少、そういう意味での固さはあったように思うんですけど、去年からは事務局含めて「皆で盛り上がりつついこう」というような仲間意識が芽生えてきているように思います。積極性を感じる。岩上…ある時期には周囲の過剰な配慮で、福祉関係プロジェクトに対して「あまり人目にふれないほうがよいのでは」という動きがあったように思います。気を使うことも大切だけれど、閉鎖的になってしまうのはもったいない。報告会などでお話を聞いていると、それぞれ活動をしている仲間同士として互いの活動を共有することが、非常に大切だと思うんですよ。

「団体間での交流はどのようにされているのでしょうか。」

〈主な掲載実績〉

新聞…12月14日神奈川新聞「大岡川照らすアート 住民と芸術家が協力」
雑誌…タウンニュース 旭区版7月26日号「心の病 アートで伝える 和田公さん」、緑区版7月26日号「森ラボ テーマにスタート」、10月11日号「まち展示スタート」、「自分も、見てる人も楽しく 石黒和夫さん」、金沢区版8月16日号「芸術祭の出展者募集」9月14日号「海の公園でアートな1日」、南区版8月16日号「アートに子ども力を」、12月6日号「蒔田公園に光の迷宮」、12月20日号「手作りアートが光を放つ」/横浜丘の手ぐらりと秋号「横浜アートサイト2012」/SALUS「サルス」10月号「インフォメーション」/田園都市生活 秋号「港北ニュータウン 地元遊び」/黄金町バザールまちづくりニュース11月号「まちづくりビジュアルアップ」/「地域情報誌いぶき1月号「寿灯祭で街を温かく」/OPEN YOKOHAMA2012「イベントカレンダー」/ヨハマアートナビ「12月号「アートカレンダー」/ハマジン11月号「市内各地で多彩なアートプロジェクトを展開中」、他
テレビラジオ…tvk 12月20日「ありがと」/FMエフエム9月27日「F.e.n.e.ーgood for you」/エフエム戸塚11月10日「ラジオの絆」/FMサルース12月15日「ビビるま」他
ウェブ…ヨコハマ経済新聞9月27日「野毛地区「帯でアートフェスティバル」動物園劇場」
www.hamakei.com/headline/7329/
11月21日「寿町で「寿灯祭」」
12月14日「大岡川周辺で冬の風物詩「光のふるむなあと」」
www.hamakei.com/headline/7551/
12月16日「寿町でアーティストと住民による「キャンドルナイト」」
www.hamakei.com/headline/7559/ 他

浅葉…年々成長しています。前々から個々では横のつながりがあったのですが、昨年一気に全体が関わるという感がありました。岩上…昨年もキック・オフミーティングでほとんどの団体が一堂に集まりましたよね。それが良かった。各団体の活動PR、パネルを作成し、持ち回りで展示したのもとても良い企画だったと思います。浅葉…そうした全体の活動を通じて、個々のつながりもより深まったようですよ。そうした意味では(アフリカからのお客様さんプロジェクト)が際立っているのでは? 黒木…僕らはアートサイト便り(昨年制作のフリーペーパー)の取材も含め、各団体の活動現場にたくさんお邪魔したことで、自分達にない新たな視点を得ることができました。(はつとたつはな亭)さんでは和田さんとの出会いをきっかけに「ぜひ一緒になかやりたい」と、はつとたつと別館で僕たちの展示をやらせていただきました。施設の利用者に会場のBGMまでご提案いただいたりして。

岩上…黒木さんと(都筑アートプロジェクト)の今井さんには、フットワーク軽く来て頂いて嬉しかったです。3歳から7歳までの子ども向けの企画に参加して頂き、運営委員の1員のように一緒に遊んでくださったり。私自身も、実際に他団体の活動にお邪魔してみてもいい所は真似て、新しい企画の参考にしたりと、勉強になりました。とにかく「百聞は一見にしかず」だと。浅葉…お互いに訪ね合って交流するというのが基本ですよ。そこがスタートという気がする。うちは子どもや若いス

スタッフが多いので、「昨年はそうしたスタッフでツアーを組んで、(都筑アートプロジェクト)さんとか、(GROUP創造と森の声)さんなどを訪ねていたんです。見に行く自分たちのモチベーションがあがるというのが一番の効果だったかな。

「これからの変化として期待する部分はありますか？」

岩上…トリエンナーレは話題になるけれど、地域で市民力で頑張っている団体がこれだけいるということに、もっと目を向けてもらえようになりたいですね。浅葉…もうすこし横浜アートサイト自体の名前が広がって来るといい、ということかな。応募数が増えて競争率が上がります(笑)。

岩上…そうなってくると、自分たちも努力しなければ。もともとは4団体でスタートしたんです。

浅葉…参加する入口は助成金かもしれないけれど、「あそこに参加している団体は、面白いよね」と期待を持たれるような、何か価値付けができればいいよね。そこは自分たちが底上げしなければ。

岩上…地域で何かやっている団体というのは、うっかりすると、怪しげな団体に思われてしまう。それが横浜アートサイトに参加してパンフレットに掲載されると、様々な立場の方から理解を得られやすくなるんですが、それにはさらに横浜アートサイト自体の認知度を上げることが必要だと。まだまだ市民には横浜アートサイトのコンセプトが伝わっ

時にはお母さんやアーティストが手伝って、子ども達が考えた装飾をひとつひとつ形にしてみました。

こうしてこの日、4つのカラフルなテーマボールが出来上がり、森の広場へ続く小道の入り口に設置されました。テーマボールは数年すると雨風でペンキの色が抜け落ち、時を刻むそう。「百年たつたらまた見に来る！」と話してくれた子もいました。

色とりどりの折り紙で「紋様」をつくる

〈スペースナナ〉で行われた「江戸の「紋切り遊び」でハガキをつくらう！」というワークショップには、シャロックホームズ(動物園劇場)実行委員会(参加団体)のスタッフをしているお母さんと小学生のお子さんふたりで参加してきました。「紋切り」とは、江戸時代の紙切り遊びの紙型のこと。古くは平安時代から着物や手ぬぐい、提灯や食器など生活のあらゆるシーンで使われてきた「紋」や「文様」を、紙で再現します。

折り畳んだ和紙を型紙に合わせてハサミでチョキチョキ切り抜いて開くと、古来から親しまれてきた紋様が現れます。その紋様を色とりどりのハガキの台紙に配置するところまでが今回の目標。言葉にすると何とも単純ですが、やってみると奥が深い。紋様の色と土台の色の組み合わせでイメージは無限大です。先生が「よく見つけたね!これは捨てられないよね」と声をかけたのが、紋様の切り端でできた紙切れがハート形をしているのに気がついて、台紙に貼付けていた

ていないと実感することもあります。

黒木…活動拠点のインシタ邸は高齢化しはじめた住宅地にある普通の家なので、僕らの活動で外国人の出入りが多くなってくると、かなり目立ってしまうんです。そういう意味では、横浜アートサイトに参加していることが地元の方との対話のきっかけとなり、活動への理解につながっていると思います。

浅葉…一般の人には、「横浜で面白い活動をしている所はアートサイトに参加しているんだ」、「このイベントもアートサイトなんだ」って気がついてもらえる。それが理想ですね。個々の活動そのもので下から押し上げられてくるような。横浜アートサイトの名が知られるようになるまでは、もう一段階ありそうですね。

ゲスト

岩上百合子…さかえdeつながるアート代表。横浜市栄区在住。2008年から事務局、2012年は代表に。

浅葉弾…金沢文庫芸術祭実行委員会代表。横浜市金沢区で生まれ、東京都在住。ダンゼイン代表。

黒木皇…アフリカからのお客さんプロジェクト代表。千葉県と横浜、日本とアフリカを行ったり来たり。自分自身の日常を旅するように暮らしている。

〈横浜アートサイト事務局より〉初号では、参加団体による鼎談を実施。横浜アートサイトのプラットフォームとしてのこれまでの成果や、今後に対する期待の「声」を聞いた。多様な団体との交流がプロジェクトの活性化につながった一方で、それぞれのアートプロジェクトの質の

女の子。ちょっととしたアイデアで型にはまらないユニークなものが生まれます。

〈スペースナナ〉の中畝さんが「実は大人が楽しいワークショップなんです。」とおっしゃる通り、参加者はどんどんとめり込んでくるようでした。

「きれいでできましたね!」、「いいですね。」と褒めてもらったのが嬉しかったと言ったのは、参加したお母さん。お子さんと一緒に夢中になって制作して、終わってからは「楽しかったあ〜!」と言っていました。

「親子」で一緒に参加することの良さ

ふたつのワークショップを通じ、子ども達は感性の柔らかさと集中力を発揮していました。手を動かすこと、目で見て感じて作ることについては、実は子ども達の方が先生のような存在。彼らの作り出すものを見て大人の方が、その濁りのない感性に心が弾んで、面白がっているのです。

「あ、こんな色使いをするんだ。知らなかったな。つて、子どもの新しい一面を発見しました。」と話してくれたお母さんもありました。

〈GROUP創造と森の声〉の石山さんは「ワークショップで、本来は大人向けのものなんだよね。親子で参加する場合は、子どもが自発的に行動することを、どこまで見守れるかが大切。大人が手を出しすぎないようにする。お母さん達にとっては見守り方を体得するような場になるのかもしれないね。」とおっしゃいます。

ワクワクをきっかけに、感じて、考える

向上や横浜アートサイトの認知度の向上が課題となった。

休日は親子でアートワークショップ

9月初旬発行 2号

横浜アートサイトには、大人と子どもが一緒になって楽しむことのできるアートのワークショップが盛りだくさん。お休みの日に、子ども達とお母さんで参加してきました。

子どもと一緒の休日はどんな過ごし方をしていますか? 子育てをしているお母さん達にとって、お料理やキャンプを体験することのできる「親子教室」には馴染みがあるかもしれません。横浜アートサイトに参加している各団体が企画するアートのワークショップも、親子で気軽に参加することのできるプログラムがたくさんあります。アート・ワークショップではどんなことが体験できるのでしょ? 親子でふたつのワークショップに参加してもらいました。

緑のたかな森をあそび場に

「わあ! こわあ! いい!」

「へんなの〜!」

木陰から、踊りでてきた森の精霊にはしゃいで駆け回る子ども達。この日は(G

「学校では、やることに目的がある。でもこは自由。どっちがいいかっていうと、どっちもそれはそれなりにいい。」と話してくれたお母さんがいました。学校や教室では「学ぶ」ことに主眼が置かれていますが、アートのワークショップでは、何かをつくりながら、講師も参加する人も一緒に楽しく楽しむというのがひとつの傾向のように思います。そこで技術を習得するのではなく、「つくる」体験を通じて様々なことを考えるきっかけを得る。それが自然と学びにつながっていくでしょう。まずは感じて考えること。アートのワークショップにあるワクワクの数々は、その力を存分に引き出してくれるのです。

「いつかきつ」とをたくさん受け取る場所

興味を持ったことには寡黙に取り組む子ども達。「楽しかった。」と質問すると、「やっているうちに、どんどんとアイデアが湧いてきて楽しくなってきた。」と話してくれたしっかり者のお姉ちゃんもいました。「つかれた〜。」なんて、手を動かしているときの熱心さとは少し距離のある返事が返ってきたりも。考えてみれば、大人だって感想を上手に言葉にするのは難しいこと。

「こで体験したこととは、すぐに役立つとかそういうことではないと思うんです。ただ、いつかまた同じようなことをする機会が巡ってきたら、自然に活かせるはず。体験が子ども達の身体の中にぐんぐん入っていつているような感じがしました。」と話してくださったお母さんの言葉が印象的です。



創造と森の声2012『森ラボ』ワークショップ「森の木霊(こだま)2012」

R.O.U.P.創造と森の声)が主催するワークショップ、「木の木霊(こだま)2012森の木でテーマボールを作ろう」に、〈金沢文庫芸術祭〉のスタッフをしているお母さん達と小学生から中学生の子ども達で参加しました。

ワークショップに参加した親子を出迎えてくれたのが、森の木霊に扮した講師役のスタッフ。映画「千と千尋の神隠し」に登場するキャラクター「カオナシ」みたい、と、参加したお母さん達も、楽しそうに見守っています。

テーマボールは10メートル程もある木の幹を素材とする巨大な彫刻作品。制作はなかなかの難関に思えます。まずは数名のチームに分かれて木の皮をはぐことからスタート。大工道具のような、子ども達が扱えない道具も使用します。ノコギリやトンカチを使う

大人も子ども達も感性を解放できるワークショップ。これまで「アート」や「ワークショップ」という言葉に馴染みのなかった方も、休日に親子でお出かけしてみてもいい。

【取材先】

- ①創造と森の声 2012 『森ラボ』ワークショップ「森の木霊(こだま)2012」森の木でテーマボールを作ろう
- ②あざみ野でつながろう。ともだち開発計画「アートで遊んで出会っちゃおう」
- 「江戸の紋切り遊びでハガキを作らう!」下中菜穂切り絵ワークショップ

〈横浜アートサイト事務局より〉夏休みが取材時期となる2号では参加団体が行う子ども向けのワークショップを訪問。金沢文庫芸術祭のスタッフ親子が、創造と森の声のワークショップに参加するなど、団体間交流を行った。参加の「声」を通して、通じて親子で楽しみながら子どもの創造性を育むアート・ワークショップの魅力を伝えた。

それぞれの街なかアートを考える

11月中旬発行 3号

東京・谷中周辺地域で20年間、まちなみ・アート・工芸に光を当てて活動が続いている「芸工展」。実行委員を務めるお二人をお招きし、横浜アートサイトの「街なかアート」を語っていただきました。



第14回 金沢文庫芸術祭 街角アートラリー開催地、アサバアートスクエアに向かう

「今回、お二人には〈A O B A + A R T〉〈金沢文庫芸術祭〉の街角アートラリー、〈都筑アートプロジェクト〉を巡って頂きました。まちの中でアートを発見するということを、どのように感じていますか？」

手嶋：最近では建物でさえ工業製品の様に画一化されています。同じような家が立ち並んだまちが次々と生まれている。僕としてはまちの中に何かエネルギーを感じるものが欲しい。

例えば〈A O B A + A R T〉の展開している地域は私有地と公用道路が明快に分かれているように思います。そこで展開するアートは、私的空間とパブリックの境界線を崩して中間領域を作り出すよう

なものになっているのかなと。空間にまだ遊びのあった谷中でも、ほとんど家が建て変わり、中間領域がなくなってきた。だからそこにアートのような「人の想いのあるもの」があればまちが楽しくなるなと。まちに作品を残して欲しいですね。

高齢化で閉塞感が出てくるような地域では、アーティストが刺激になってまちを元気にし、その刺激を求めて若い人も寄ってくる。ただ、そのとき、アーティストがどうやって食べていけるのだろうか。

山田：〈A O B A + A R T〉では、作品を常設化することに意識があるそうですね。そこで問題となってくる日常的メンテナンスを、地域住人が作品を購入し、「所有した人がメンテナンスする」という形で解決していると同じでした。実際に作品を買ってくださった方もいるそうですね。ちなみにアートを展開しているプロジェクトで、作品が実際に売れているという事例は珍しいものかと。

「取り組みの印象はいかがでしたか？」

手嶋：〈金沢文庫芸術祭〉の街角アートラリーは芸工展と良く似た取り組みだと思いました。ただ、僕らと違い、お祭りのような1D A Yイベントも開催していますね。これはいいなと。関わっている人が皆でまとまることのできるタイムミングにもなり、楽しそうですね。広域に長い期間で展開する街角アートラリーと2本立てにすると、それぞれの良さが補完される。僕らもそのような形にできればいいのですが。ただ、両方やるというのもエネルギーが必要ですね。

できるというスタンスです。

手嶋：一方で芸工展のように「だれでも」というスタンスでやると、現代アートの世界で自らの可能性を伸ばそうという、やる気のあるアーティストが参加しづらくなるという側面もある。どうやら一緒にできるのか、あるいは一緒にせずに二本立てでいくのか。そこでも各プロジェクトのカラーが分かれてくるのかなと思いますね。

「横浜アートサイトについては、どのような印象をお持ちですか？」

手嶋：全体を見渡すことができるようなニューレターを作っていること、横浜アートサイトを通じてネットワークができてきているのいいなと思いました。地域でなにかやるといういろいろな事がおこるものですし、ボランティアベースの運営スタイルだと、何かがあったときにどうしても「しょぼん」としてしまふ。けれど、同じような事をしていく仲間がいるというだけで元気になりますから。

山田：芸工展と他団体の違いを知ること、自分たちがやっていることの意味付けができる感じました。横浜アートサイトに参加している各団体の運営状況は非常に参考になりました。

ゲスト

手嶋尚人：芸工展実行委員、東京家政大学造形表現学科准教授、建築家。東京芸術大学大学院（前野研究室）修了。大学院時代より谷中のまちづくりにかかわる。1989年まちづくりグループ「谷中学校」設立。谷中芸工展等を企画運営。

山田：私は〈A O B A + A R T〉のドキュメントブックが良かったです。こうした記録の蓄積は、プロジェクトが次のステップに進むときにも必要なものですし、外向けにも「こういうことをやっていたんだ」とイメージを定着させることができると思います。

〈都筑アートプロジェクト〉は公共空間に切り込んでいっている所に面白味を感じました。高架下や駅構内で展開している、よく許可を取得したなど。

手嶋：開催地であるセンター北駅周辺の面白さもありますね。古代遺跡があり、農家の蔵があり、ニュータウンがある。〈都筑アートプロジェクト〉を旗揚げした金井聰和さんが「風景が地層になっている」と土地の性格を読み解くように、彼ら自身がまちに感じている面白さを外向けに記述できていないのが惜しい。言語でも伝えられると、より伝わりやすくなるのでは。

「3団体の活動には、街中でアートを展開するという共通点はあるものの、運営の主体となっている方のタイプに特徴的な違いがあったかと。」

手嶋：〈都筑アートプロジェクト〉の場合はアーティストが主体、〈金沢文庫芸術祭〉は地域の方々が中心そうですね。〈A O B A + A R T〉はどうでしょう？

山田：2008年のスタートアップはアーティストの本間さんとデザイナーユニットの「ヨシタ」さんが主導されていたそうです。彼らが「アートマネジメントの必要だ」と考えたことから、現在はアートマネジメントを志向するスタッ

フが中心となって運営されています。

手嶋：〈金沢文庫芸術祭〉は地域の方や美大の学生・卒業生など多くのスタッフを抱えているのですが、想いの強い人が数名いることがパワーなんだなと思いました。お話を伺った井上えつこさんも控えめだけれど、想いの強い人ですね。山田：物理的なことではアサバアートスクエアのように、スタッフが気軽に集まることのできる場所があるというのは運営上、大きいと思います。

手嶋：芸工展でも拠点があった時期は集まりやすかったですね。ボランティアも参加しやすいですね。継続の力にもなっているように思います。

「どのような方が運営しているかは、活動にも反映されてきそうですね。」

手嶋：運営側のタイプや意識、興味によつて実はカラーの違う物であるということとは言えますね。それに、プロジェクトの位置づけもあると思います。

アーティストが参加してそこで成長する場なのか、まちづくりとして創造的行為を共有して楽しむ場になるのか。

我々の芸工展はまちづくりに軸があるのでも、「手焼きせんべい」や「和菓子」も作品という意識でやっています。文化性やまちの特徴を育ててという視点で、創造的なものであれば、なにもアートと先鋭化しなくても楽しいんじゃない？って。まちづくりと考えた時は、そういうものも含めて進めたいなと思います。山田：だれでも創造性をもっているというか、だれでもまちに対してアクションが

当事者の心の変遷、楽しみや生き甲斐といったものなど様々ですが、個々の施設が普段から大切にしていることを忘れてはいけないと思います。

「神奈川県立こども医療センター」で活動する「よこはま音楽広場」の発表会はいかがでしたか？」

鈴木：まず医療は一時的に利用する場であり、福祉は日常寄りという部分がある。他の2カ所と大きく違うことですね。発表会では子ども達の晴れの舞台という感じを大切にしているなと思います。二人の女の子が物語を朗読し、一節読み上げることに周囲に楽器を持って集まった子ども達も言葉のイメージに合わせて即興で音を奏でるというプログラムがありました。朗読を媒介にグループが形成され、子ども達同士のコミュニケーションが見えたのが良かったです。

「発表と事前に行うワークショップでは参加者の意識に隔たりがあるそうですね。ワークショップのみ参加した子どもも多かったとか。」

鈴木：病院側の意識とアートプロジェクト側の意識をより融合して、発表の場が本当に必要なか？から再考してみてもよいのでは。発表する場合は目的設定をきちんとしておくと思いが少ないです。

「この病院では、40以上のボランティア団体が活動しているそうですね。」



よこはま音楽広場実行委員会による「音遊びフェスティバル」にて

「医療と福祉の現場でのアートプロジェクト、3カ所をご覧いただきました。」

鈴木：分野を越えた交わりのあるプロジェクトは、受け入れ（協働）側の目的や反応が気になりますね。受け入れ側それぞれ施設には福祉や医療の軸があり、そこにかかっているアートプロジェクトという文化軸、双方があつて初めて成り立っていると思いますから。施設の軸をはずして面白いことをやるところで意味がない。そのために、相手との関係を築くことが大切でしょう。なので医療や福祉分野と関わるプロジェクトは、受け入れ側への効果も意識に入れるものだと考えます。その効果は複合的に表れ、利用者に対する社会的理解の拡大や職員の研修という効果もありうるし、

DATA

参加団体プロジェクト詳細

全てのプロジェクトは、公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団「横浜アートサイト2012」の共催事業として実施された。

A 第14回金沢文庫芸術祭

主催：金沢文庫芸術祭実行委員会

協力：公益財団法人横浜市緑の協会

後援：横浜市金沢区役所、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会、神奈川県教育委員会、横浜金沢観光協会、神奈川新聞社、FMヨコハマ、tvk、横浜アーツフェスティバル実行委員会

協賛：株式会社ミックコーポレーション、金沢区三師会、ホルベイン画材株式会社、浅葉デザイン教室、池川クリニック、株式会社エッチアールディ、大成整形外科クリニック、株式会社オマージュ、風美容院、カトリック金沢教会、金沢白百合幼稚園、株式会社金沢臨海サービス、Cafe&Bar EN、金八家ラーメン、くま薬局、昭和精工株式会社、Zinギター工房、セブンイレブン横浜寺前店、タッドライン、ダンデザイン、東光禅寺、カフェばおぼぶ、浜坂医院、ふみくら茶屋、まいど金沢文庫店、むとう教材店、焼き鳥番長、山本助産院、横浜高等学校、オヒアフラススタジオ

会期中イベント

9/16 1DAYイベント

10/1～11/15 街角アトラリー

TEL: 045-788-9119

E-mail: info@bunko-art.org

URL: www.bunko-art.org

B 都筑アートプロジェクト

ニュータウンARTトリップー線路の下から旅に出るー

主催：都筑アートプロジェクト

後援：横浜市文化観光局、横浜市都筑区

助成：神奈川県文化芸術活動団体事業補助金

協力：横浜市交通局、横浜市歴史博物館、NPO法人都筑民家園管理運営委員会、三九堂、HUNT、e-プロジェクトKITA、中川中央町内会

ブレイベント

7/29 都筑アートプロジェクト・長者町アート☆プラネタリアム・スペースナナ合同キックオフパーティー

9/28～10/21 都筑アートプロジェクト参加作家展

9/29～10/27 本事業最終日のアートイベント「朗読発表会」にむけたワークショップ(計5回)

会期中イベント

10/7 オープニングイベント、今井紀彰WS「ツツキーランド」、VOQ+松本力「ライブパフォーマンス」

10/8 WS「ツツキーランド」

10/13 嶋田勇介(舞踏)+須弥山(パーカッション)によるダンスパフォーマンス

10/14 嶋田勇介(舞踏)+須弥山(パーカッション)によるダンスパフォーマンス

10/21 WS「ツツキーランド」

10/27 着ぐるみアイドルユニット「しでかすおともだち」による「しでかす列車」の運行、WS「ツツキーランド」

10/28 WS「ツツキーランド」

「みんなで朗読の公演を作ろう!」公開練習

11/4 都筑アートライブ@大塚遺跡、今井紀彰WS「ひみつ基地をつくろう!」、永岡大輔WS「朗読発表会」、VOQ+松本力 ライブパフォーマンス「Thro-w Hol-loa at Night」など

TEL: 045-507-3477

E-mail: tsuzuki.art.project.2012@gmail.com

URL: chikara.p1.bindsite.jp/tsuzuki_art_project_2012.html

C 長者町アート☆プラネタリアム

主催：長者町アート☆プラネタリアム実行委員会

共催：長者町アートプラネットChapter2運営委員会、MA-office

協力：長者町7、8、9丁目商栄会、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター、吉田興産株式会社、株式会社シルクハット、株式会社シティコミュニケーション、他

協賛：株式会社ハマフローリスト、有限会社市川バラ園、株式会社プランツパートナー、他

ブレイベント

4/18、5/3 「長者町7丁目～8丁目をくまなく歩いてみる会」

10/27、28 関内外OPEN! 「エコバッグづくり」

会期中イベント

11/10 オープニングパーティ

11/11 北川純「まちあるき&エロはかるた大会」

11/17 杉山孝貴&タムラタクミ「まちあるき&トーク」

11/18 上畠益雄&竹本真紀「まちあるき&トーク」

11/24 川村真稔&吉井千裕「宇宙体験」

11/25 嶋田勇介「ダンス」

E-mail: artplanet159@gmail.com

URL: artplanet159.web.fc2.com/artplanetarium.html

「へぼつとたつはな亭」では、自身も障害があり、施設ではピア(仲間)スタッフとして文化系の活動を中心に担っている和田公一さんと、施設職員の宮地博美さんにお話を伺いました。

鈴木：施設の成り立ちや活動がとても素朴で地に足がついているので、そこにアートが乗っかってきても、軸が揺らがないように相乗効果を出せていると思います。ニーズと連携と支援のバランスが整っていますね。

鈴木：長い活動歴で培ったものだと伺いましたが、今井尋也さんはワークシoppを楽しい場にしていて、そのスタンスがとても良い場にしていて、そのスタンスがていくんだとガチガチに思っているタイプの人にはあおした良い雰囲気の場合は作れないでしょうね。私達の施設に「障害者とやりたい」と思っていたんです」と言ってきた人たちがいて、あまり上手くいかなかったんです。アートの表現に周りを巻き込みすぎてしまうと、福祉現場に危険が生まれる可能性も考えられます。発表会ではどのような表現になるのか気になりますね。活動場所の障害福祉施設ともだちの丘もよい施設でした。これは所長の和智恭子さんの人柄に付くのではと。今井さんの活動だけではなく、地域のおじさんの「木工をやりたい」という気持ちに場所を用意してあげ、結果として施設との関係ができて製品を作ることになったと伺いました。それって少し順序が違うだけなんですけれど、凄いいことですよ。今井さんと和智さんは互いによりコミュニケーション

鈴木一郎太：NPO法人クリエイティブサポート・ツツキスタップ。Central St. Martins College of Art & Design ファインアート学部修了。2007年より業務全般に関わる。「たけし文化センター」コンセプト起草。「障害福祉施設アルス・ノヴァ」、

鈴木：長い活動歴で培ったものだと伺いましたが、今井尋也さんはワークシoppを楽しい場にしていて、そのスタンスがとても良い場にしていて、そのスタンスがていくんだとガチガチに思っているタイプの人にはあおした良い雰囲気の場合は作れないでしょうね。私達の施設に「障害者とやりたい」と思っていたんです」と言ってきた人たちがいて、あまり上手くいかなかったんです。アートの表現に周りを巻き込みすぎてしまうと、福祉現場に危険が生まれる可能性も考えられます。発表会ではどのような表現になるのか気になりますね。活動場所の障害福祉施設ともだちの丘もよい施設でした。これは所長の和智恭子さんの人柄に付くのではと。今井さんの活動だけではなく、地域のおじさんの「木工をやりたい」という気持ちに場所を用意してあげ、結果として施設との関係ができて製品を作ることになったと伺いました。それって少し順序が違うだけなんですけれど、凄いいことですよ。今井さんと和智さんは互いによりコミュニケーション



鶴ヶ峰地域ケアプラザにて和田さん(左)と鈴木さん(右)

鈴木：この場合は病院がプロデューサー的な役割を持つているのかもしれないね。ボランティアアコーディネーターのような役割の方がいるとも聞いている。そうすると施設にとつての(よこはま音楽広場)は、いちボランティア団体になつてしまう。アートプロジェクトという意識においては、そこはもっと期待できる部分だと。取り組みを展開していく方向性は、院内で活動する他団体との連携を高めるなど、いろいろあります。病院とコミュニケーションし、意見を引き出すことができれば、あとは代表の高田由利子さんの気質や興味、関わる人の興味によつて自然と向かう方向は決まっていきたいと思います。

鈴木：長い活動歴で培ったものだと伺いましたが、今井尋也さんはワークシoppを楽しい場にしていて、そのスタンスがとても良い場にしていて、そのスタンスがていくんだとガチガチに思っているタイプの人にはあおした良い雰囲気の場合は作れないでしょうね。私達の施設に「障害者とやりたい」と思っていたんです」と言ってきた人たちがいて、あまり上手くいかなかったんです。アートの表現に周りを巻き込みすぎてしまうと、福祉現場に危険が生まれる可能性も考えられます。発表会ではどのような表現になるのか気になりますね。活動場所の障害福祉施設ともだちの丘もよい施設でした。これは所長の和智恭子さんの人柄に付くのではと。今井さんの活動だけではなく、地域のおじさんの「木工をやりたい」という気持ちに場所を用意してあげ、結果として施設との関係ができて製品を作ることになったと伺いました。それって少し順序が違うだけなんですけれど、凄いいことですよ。今井さんと和智さんは互いによりコミュニケーション

鈴木：アーティストには臨機応変さがあり、良識的な非日常を作ることが上手で、とても人間的な人が多いです。医療や福祉の現場は生身の人間を相手にする場ですので、そうした意味で相性が良く、成果が出る可能性は高いと思います。ただ、確証や期待感の提示が必要でしょう。納得いく価値が提示され、福祉的支援に繋がるという理解が成立すれば、施設が予算を負担する形での継続もありうると思います。先日、和智さんがおっしゃっていた、今井さんのワークシopp参加者の「おうむ返し」が改善したという事例を効果として認めるべきかと。こうした事例をまとめて、その中から抜き出しているものを学者に紹介し、学会発表と繋げてあげるなどすると、福祉施設側がアートプロジェクトとの連携を取りやすくなると思います。しかし、必ずしも効果が約束されるセオリーはない訳で、手探り状態を繰り返すものなのです。そこが難しさですね。

鈴木：アーティストには臨機応変さがあり、良識的な非日常を作ることが上手で、とても人間的な人が多いです。医療や福祉の現場は生身の人間を相手にする場ですので、そうした意味で相性が良く、成果が出る可能性は高いと思います。ただ、確証や期待感の提示が必要でしょう。納得いく価値が提示され、福祉的支援に繋がるという理解が成立すれば、施設が予算を負担する形での継続もありうると思います。先日、和智さんがおっしゃっていた、今井さんのワークシopp参加者の「おうむ返し」が改善したという事例を効果として認めるべきかと。こうした事例をまとめて、その中から抜き出しているものを学者に紹介し、学会発表と繋げてあげるなどすると、福祉施設側がアートプロジェクトとの連携を取りやすくなると思います。しかし、必ずしも効果が約束されるセオリーはない訳で、手探り状態を繰り返すものなのです。そこが難しさですね。

H あざみ野でつながろう ∞ ともだち開発計画～アートで遊んで出会っちゃおう～

主催：スペースナナ

後援：NPO法人こども応援ネットワーク、NPO法人グリーンママ、地域療育センターあおぼ、(社福)グリーン、(地域作業所)カブカブ川和、いはる美術、NPO法人こども応援ネットワーク、NPO法人ピッピー・親子サポートネット、NPO法人W.Coパレット、福島の子どもたちと共に川崎市民の会

会期中イベント

7/11～22 「今井紀彰芸術大サーカス」On The Earth-Tokyo展示
7/14 「何でもスイッチを作ろう」ワークショップ
7/15 「写真で遊ぼう(写真コラージュ)」今井紀彰ワークショップと中津川浩章とのトーク
7/31 下中菜穂ワークショップ「江戸の紋切りあそびでハガキを作ろう」
7/31～8/12 「ふわふわと日本のかたたちが舞い降りる。江戸の切り紙『紋切り』インスタレーション」下中菜穂作品展示
8/22～9/2 首藤幹夫写真展「影めぐり」
8/26 「幻燈機がやってくる」首藤幹夫ワークショップ

E-mail: spacenana@gmail.com
URL: spacenana.com

ほっとたつはな亭

主催：NPO法人「共に歩む市民の会」/ 旭区地域生活支援拠点ほっとぼっと
後援：横浜市文化観光局
協力：NPO法人木々の会

プレイベント

5/31 事始め茶話会イン二俣川ハウス

会期中イベント

7/12 ハワイアンコンサート
7/22 ヴァイオリンとチェロのミニコンサート
7/26～28 ギャラリー『ひとりじゃないよ』+ゲリラワークショップ
9/12 箏と尺八のコンサート
9/28 持ち寄り朗読会
10/8 あったかいごはんとおはなし
10/21 旭区民まつり サックスカルテットコンサート
10/20～24 ギャラリー『精神障害者の「おかげさまで」展』
10/27～31 ギャラリー『6人展』+ワークショップ
11/8 サロンコンサート
11/6～30 ギャラリー巡回展①
11/20 街角コンサート・フルートデュオ
12/4～2013年1/11 ギャラリー巡回展②
12/5 クリスマス ジャズ コンサート
12/18 歌とピアノとお話・クリスマス コンサート

TEL：045-953-6727（火～土10～18時[金13～19時]）
E-mail: hottopot_a@ybb.ne.jp
URL: www.geocities.jp/hottopot_a/hottotop001

J ともだちの丘えんげきまつり

主催：ともだちの丘えんげきぶ
協力：港北区障害者地域活動ホームともだちの丘

プレイベント

毎週水曜日 16時～18時 ゼロボディワークショップ
12/12 ともだちの丘えんげきまつり公開リハーサル

会期中イベント

12/14 ともだちの丘えんげきまつり舞台公演「そらみみソファ」、シンポジウム「福祉と演劇の可能性について」

TEL：080-6705-1359(担当 今井)
E-mail: friend@megalo.biz
URL: www.megalo.biz

K さかえdeつながるアート2012

主催：さかえdeつながるアート
共催：栄区民文化センターリリス
協力：横浜市小菅ヶ谷地域ケアプラザ、さかえ地域通貨プロジェクト・イタッチ、さかえ・ショップ&アート、さかえegaoプロジェクト、他(順不同)

プレイベント

「アートdeキャラバン」
5/27 「まど」小菅ヶ谷地域ケアプラザ
6/24 「とびら」野七里地域ケアプラザ
「アートdeスクール」
6/10 草木染め研究室(「工房・野楽ネットワーク」)

会期中イベント

「アートdeキャラバン」
7/22 「めいろ」笠間地域ケアプラザ
8/25 「リリスの大冒険」で作品展とワークショップ「キラキラ☆かんむり」を実施
10/7 「ハロウィン」中野地域ケアプラザ
11/18 「もみじ」豊田地域ケアプラザ
12/1 「クリスマスプレゼント」桂台地域ケアプラザ
5月～8月を前期、10月～12月を後期として活動

「アートdeスクール」
草木染め研究室(「工房・野楽ネットワーク」)7/8、8/18、9/9、10/13、11/11、12/9の計6回実施)
五感ワークショップ(9/30「注文の多いアート」他、11/25「人生のわかれ道アート」他、計2回実施)

「アートdeカフェ」
12/15 北川純とつながるアート(ともしびカフェ「ポエム'10」で実施)

「中学生とポーランドポスター展に行こう」
11/21、25 ポーランドポスター展に栄区の中学生を招待(継続企画として1/9、2/22にデザイナーによるポスター制作指導を実施)

TEL：080-4150-2700(事務局)
E-mail: info@sakae-art.jp
URL: www.sakae-art.jp

D 動物園劇場

主催：動物園劇場実行委員会(NPO法人アークシップ、NPO法人シャーロックホームズ、Cocoroni 映像制作会社)
共催：横浜市立野毛山動物園、公益財団法人よこはまユース
後援：NPO法人ワーカーズ・コレクティブ たすけあい ぐっぴい
協力：西区第四地区自治会連合会、西区第四地区社会福祉協議会、にしく市民活動支援センター、横浜市野毛山荘

会期中イベント

9/29 動物園劇場

E-mail: info@arcship.jp
URL: www.facebook.com/zootheatre

E 創造と森の声2012『森ラボ』(Laboratory of the Forest)

主催：GROUP創造と森の声
共催：横浜市緑区
後援：横浜市文化観光局、横浜市環境創造局、横浜市教育委員会、横浜市旭区
協力：横浜市交通局、花いっぱい会、十日市場中学地域交流事業、いはるびじゅつ、NPO法人グリーンママ、ひのでや酒店

プレイベント

「森づくり体験」
5/20 春の森を歩こう 私たちの森づくり
6/17 木を切ってそれから?
7/15 草刈りを楽しもう!
「春～秋 森の共同制作」
5月～6月 森の椅子(参加した家族と森の椅子を森でつくりました)
5月～9月 森の織物2012(大木の間に織物を織り、そのまま森に展示)

会期中イベント

「夏 森のワークショップ(森会場にて)」
7/22 森の木霊(こだま)2012<森の木でトーマスポールを作ろう>
8/12 森で音を拾う<森の小枝や草から音を見つけるアートな体験>
8/25 間伐材でクッキング<森の料理は石窯や焚火でつくりました>
9/16、17 食べたいものを彫る <丸太を彫って大きな食べものにしました>
「秋 展覧会・フェスティバル」
10/8～10/27 森からまちへ作品展(JR中山駅 市営地下鉄中山駅)
10/21 森のコンサート
10/21～11/18 横浜の森美術展5
制作期間:5月～10/20
展示期間:10/21～11/18
展示期間中日曜日:アートツアー(適宜特別ツアーを実施)

TEL: 045-933-1460(事務局 石山)
E-mail: morinokoe2@yahoo.co.jp
URL: www.morinokoe.jp

F 大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなぁど2012」

主催：大岡川アートプロジェクト実行委員会
後援：横浜市文化観光局、南区役所、神奈川新聞社、tvk、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会
協賛：三菱地所レジデンス株式会社・ザ・パークハウス横浜吉野町、社団法人神奈川県宅建物取引業協会・横浜南部支部、横浜みなとマリンライオンズクラブ、鹿島・五洋・松尾建設共同事業体、アズビル株式会社、横浜建物管理協同組合、三徳エステート株式会社、他 近隣商店等多数
広報協力：横浜市交通局、株式会社タウンニュース社
協力：蒔田地区連合町内会、お三の宮地区連合町内会、太田地区町内連合会、太田地区東部連合町内会、蒔田エコサロン、市立横浜商業高等学校、市立蒔田中学校、市立共進中学校、市立日枝小学校、市立南太田小学校、市立大岡小学校、横浜市カヌー協会、コレヨコ水辺班、フォーラム南太田(公益財団法人横浜市男女共同参画センター)、横浜市吉野町市民プラザ、他多数(順不同)

プレイベント

7/28、29 南まつりブースにてワークショップ開催
10/27、28 南区文化祭出展 写真展示、ワークショップ
11/4 横浜商業高校(Y校)文化祭ブース参加 ワークショップ開催

会期中イベント

12/15 水辺の光コンサート、ほっとHotカフェより3店がロビーに出店、ロビーコンサート
12/16 光の回廊、首都高橋桁ライトアップ、キャンドルナイト、切り絵灯籠ほか市民作品展、ほっとHotカフェ、水辺の光コンサート

TEL: 070-5557-9924
E-mail: ohokagawaart.koho@gmail.com
URL: ohokagawaart.blog45.fc2.com

G AOBA+ART2012

主催：AOBA+ART2012実行委員会
協賛：緑風会
協力：とくらく、アートフォーラムあざみ野

会期中イベント

7/28、29 SUMMERCUp'12(オリジナルカップで食べるかき氷ワークショップ)
10/14 「AOBA+ART DAY」トーチカによる映像ワークショップ(※9/20に地域の老人会・緑風会向けイベントの事前説明会を中部自治会館にて実施)
12/8 「次世代郊外まちづくりフォーラム」におけるワークショップ映像作品の上映
12/20 「(地域の老人会・緑風会向け)映像作品上映会」

E-mail: info@aobaart.com
URL: www.aobaart.com



文化芸術による地域づくり事業
「横浜アートサイト2012」実施レポート

2013年3月21日発行

URL: artsite.yafjp.org
TwitterID: @Y_Artsite
Facebookページ: www.facebook.com/yokohama.artsite

編集・発行: 横浜アートサイト事務局
デザイン: NOGAN
企画編集サポート: 友川綾子

横浜アートサイト事務局
(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ)
〒231-0003 神奈川県横浜市中区北仲通4-40
商工中金横浜ビル5階
TEL: 045-221-0212 FAX: 045-221-0216
E-mail: artsite@yaf.or.jp

平成24年度 横浜市「文化芸術による地域づくり事業」

L 2012キャンドルナイト・アートフェスティバル

主催: NPO法人カフェ・デラ・テラ
共催: 善了寺、よこはま地域ケア研究会、戸塚宿東集會、とつか宿駅前商店会、デイサービス還る家ともに
協力: 矢部町内会、ナマケモノ倶楽部

会期中イベント
7/13 トークイベント「震災から学んだ医療と介護」
7/27 キネ・デラ・テラ(自主上映会)「うまれる」上映
12/14 冬至キャンドルナイト2012 ポスト3・11を創る ～そばにいるしえあわせ～ (トークライブ・音楽ライブ・キャンドルアート等)

E-mail: cafedelaterra@guitar.ocn.ne.jp
URL: www.cafedelaterra.org

M カドベヤ・オープンDAY 一つどおう・かたろう・ことを起こそう

主催: 居場所「カドベヤで過ごす火曜日」
後援: 慶應義塾大学教養研究センター
協賛: コトラボ合同会社、NPO法人さなぎ達、楽庵、一般社団法人地唄舞普及協会、黒沢美香&ダンサーズ、The Dance Times、ヨコハマホステルヴィレッジ

会期中イベント
毎週火曜日
13時～19時 足湯カフェ
19時～21時 ストレッチと夕めし(19時～20時 身体やアート関連のワークショップ、20時～21時 参加者全員で夕食)
11/4 カドベヤまつり
11/6 第1回JOYnt Café「好きな音楽を語ろう」
12/4 第2回JOYnt Café「冬に聴きたい音楽」

TEL: 045-566-1251 (慶應義塾大学 横山千晶研究室)
E-mail: chacky@a8.keio.jp
URL: ameblo.jp/kadobeya2010

N 第3回寿灯祭

主催: 寿オルタナティブ・ネットワーク
共催: 寿地区自治会
協力: 財団法人寿町勤労者福祉協会、山多屋酒店、NOGAN

プレイベント
10/30 カドベヤで過ごす火曜日「ワンカップでキャンドル作り」
11/18 「ワンカップでキャンドル作り2」

E-mail: info@creativeaction.jp
URL: koto-buki.info/candle

O ホームステイ～アフリカからのお客さんプロジェクト～2012

主催: アフリカからのお客さんプロジェクト
後援: 横浜市文化観光局
第5回アフリカ開発会議(TICAD V)パートナー事業

プレイベント
9/17 岩井成昭「GARDEN3部作」上映会

会期中イベント
12/15 エメカようこそパーティー!!
12/17 エメカと岩井成昭(美術家)の夕べ
12/20 安岐理加さん「珈琲と、」しし鍋パーティー
12/21 岸井大輔×エメカ×アサダ～自治について語る～
12/23 エメカ・オグボウ×アサダワタル滞在制作成果発表／わたしたちは新聞ですか?Yes! we are newspapers.

E-mail: kohkuroki@gmail.com
URL: hoakyapt.com

P ワダヨコ

主催: ワダヨコ
協力: 横浜国立大学地域実践センター、和田町商店街町内会

会期中イベント
7/15 風鈴づくり
8/15、16 施工ワークショップ 椅子・棚づくり
9/16 似顔絵教室
10/14 陶芸教室
11/10 YNU ショートフィルム

E-mail: wadayoko2010@gmail.com
URL: ameblo.jp/wadayoko2010

Q こどもの創造性をアートでつなぐ コミュニティ・ミュージックセラピー(CoMT)の新たな可能性をめぐって

主催: よこはま音楽広場実行委員会
後援: 洗足学園音楽大学音楽療法研究所

会期中イベント
7/12、19、8/6、23、30、9/13 音遊びワークショップ
9/27 音遊びフェスティバル

TEL: 090-6193-6041 (代表 高田)
E-mail: yuri0375@aol.com
URL: www.facebook.com/pages/よこはま音楽広場実行委員会/318619611558933